

## 保育科第三部

学科教育科目

## 保育科第三部の教育目標

保育科第三部は、建学の理念を学科教育の基本とし、教育目標を次のように定めている。

＜豊かな人間性を基盤とする質の高い保育者の養成＞

この目標を達成するため、次の二つを学科教育の方針としている。

豊かな情操や創造力を培い、円満な人格をめざし自己を高めるように努めること

子どもを理解し、子どもの心身の発達を援助する専門的能力を養うこと

当学科に学ぶ学生は、これらの方針に沿い勉学に励み、3年間の学生生活を通して

「保育とは何か」を理解すること

「保育者としての専門性」を身につけること

を追求し体得してもらいたい。

そのためには、保育に関する専門的知識と技能を修得するだけでなく、自己をみつめ自己を高めること、真理追求の姿勢を持ち主体的に学びとること、広い視野・教養・感性を養うことが必要である。

学修と就労の両立には、制約された時間の中でたゆまぬ日々の研鑽が求められる。ともに励まし支え合う人間関係を作り、苦楽を乗り越えた経験は、保育者の資質として生かされることであろう。

当学科においては、教育課程の中から所定の単位を修得することにより、次の免許・資格を取得できる。

幼稚園教諭二種免許

保育士資格

これらの免許・資格の取得にあたっては、社会的責任として子どもの側に立ったよき保育者となることが求められている。

そのため、学生はその資質の向上に努めなければならない。

卒業後の進路としては、保育所、保育所以外の児童福祉施設、幼稚園、各種企業など多方面にわたっている。

なお、当学科の教育課程の履修にあたっては、所定の条件があるので各自注意されたい。

# 平成 22 年度 (2010 年度) 入学者



# カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成22年度（2010年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当 (数字は週当り授業時間)						備考	
			必修	選択			1年		2年		3年			
							I	II	I	II	I	II		
学科教育科目	保育方法論	講義		2	◆			2						
	養護内容	演習		1		●		2						
	乳児保育Ⅰ	演習		2		●	2							☆
	乳児保育Ⅱ	演習		2		○						2		☆
	障害児保育	演習		1		●			2					
	教育相談	講義		2	◆							2		
	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		2	◆	●							2	☆

(注意)

- ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
- ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。
- 印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
- 印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	器楽A				
担当者名	中島 龍一・他				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育者として望ましい姿勢を保ちつつ保育現場における応用力を身につけるための演奏技術を学びます。具体的には現場ですぐに役立つピアノとして「コード伴奏による弾きうたい」を簡易な段階から開始し、個々の到達度に合わせて個人レッスンと少人数のグループレッスンとを適宜おこなって進めていきます。

《授業の到達目標》

- コードネームを理解し、記されたコードネームを見ただけで容易に伴奏付けができる。
- 容易に伴奏付けができることによりうたうことにも集中し、楽曲をのびのびと弾きうたいできる。
- テキストの基礎編の中から指定された曲を全て弾きうたいできる。

《テキスト》

『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）  
 『すいかとかぼちゃのロックンロール』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）

《参考文献》

資料等は、必要に応じて配布する。

《成績評価の方法》

1. 欠席が1/3を超えた者は発表演奏資格なし。
2. 毎回の授業において指定曲を1曲クリアし、I期においての最終段階（基礎編）が修了していること。
3. 研究発表会（グランドピアノによる個人発表演奏）において規定の課題（1か月前に指示）ができていていること。
4. 授業態度が真面目であること。
5. 受講進捗度がきちんと整理されて記入してあること。
6. 実技試験（60%=研究発表会）と授業点（40%=上記1～5及び備考の1～4）の総合評価。

《授業時間外学習》

・予習

毎回、次の授業に向けての課題を指示しますから必要に応じて各自で練習してください。

・復習

毎回授業で扱ってきた曲を授業中に復習することにより着実にレパートリーを増やしていきます。授業中だけで復習の時間が不足と感じた時は個々で必要に応じて練習室や自宅等で練習してください。

《備考》

1. 遅刻・早退は20分まで出席扱い（当該日の授業点を減点します）とします。やむを得ず20分を超えそうな時は出席扱いとはなりません。授業内容が毎回つながりを持ちますので、そのようなときでも必ず出席してください。
2. 身だしなみとエチケット（つめ・髪・服装・靴等の清潔感）を心がけてください。
3. 毎回受講進捗表に必要事項を記入し指導者から必ずサインをもらってください。
4. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、授業終了時には次の使用者のために清潔を心がけてください。特に室内は飲食厳禁はもちろんのこと、携帯電話の使用も厳禁（発覚の際は当該日の授業点を減点します）です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	『器楽A』における授業内容の説明。指導者の紹介と個々の進捗調査及び個人指導。
第2週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から かえるの合唱 メリーさんのひつじ 他（個人の進捗に応じて選曲）
第3週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から かたつむり 他（個人の進捗に応じて選曲）
第4週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から きらきらぼし 他（個人の進捗に応じて選曲）
第5週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から やきいもグーチーパー 他（個人の進捗に応じて選曲）
第6週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から とんぼのめがね 他（個人の進捗に応じて選曲）
第7週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から ぶんぶんぶん 他（個人の進捗に応じて選曲）
第8週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から ちょうちょう 他（個人の進捗に応じて選曲）
第9週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から ゆき 他（個人の進捗に応じて選曲）
第10週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から チューリップ 他（個人の進捗に応じて選曲）
第11週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から うみ 他（個人の進捗に応じて選曲）
第12週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から こいのぼり 他（個人の進捗に応じて選曲）
第13週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から研究発表時の課題曲 ※未履修曲の点検
第14週	「うたのメルヘン」から 研究発表会のための予備練習と不足部分を補い個人指導を行う。 ※未履修曲の点検
第15週	「うたのメルヘン」から 研究発表会

《学科教育科目》

科目名	器楽B				
担当者名	中島 龍一・他				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育者として望ましい姿勢を保ちつつ保育現場における応用力を身につけるための演奏技能を学びます。具体的には現場ですぐに役立つピアノとして「コード伴奏による弾きうたい」を簡易な段階から開始し、個々の到達度に合わせて個人レッスンと少人数のグループレッスンとを適宜おこなって進めていきます。

《授業の到達目標》

- コードネームを理解し、記されたコードネームを見ただけで容易に伴奏付けができる。
- 容易に伴奏付けができることによつてうたうことにも集中し、楽曲をのびのびと弾きうたいできる。
- テキストの基礎編の中から指定された曲を全て弾きうたいできる。

《テキスト》

『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）  
 『すいかとかぼちゃのロックンロール』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）

《参考文献》

資料等は、必要に応じて配布する。

《成績評価の方法》

1. 欠席が1/3を超えた者は発表演奏資格なし。
2. 毎回の授業において指定曲を1曲クリアし、Ⅰ期においての最終段階（基礎編）が修了していること。
3. 研究発表会（グランドピアノによる個人発表演奏）において規定の課題（1か月前に指示）ができていていること。
4. 授業態度が真面目であること。
5. 受講進捗度がきちんと整理されて記入してあること。
6. 実技試験（60%＝研究発表会）と授業点（40%＝上記1～5及び備考の1～4）の総合評価。

《授業時間外学習》

・予習

毎回、次の授業に向けての課題を指示しますから必要に応じて各自で練習してください。

・復習

毎回授業で扱ってきた曲を授業中に復習することにより着実にレパートリーを増やしていきます。授業中だけで復習の時間が不足と感じた時は個々で必要に応じて練習室や自宅等で練習してください。

《備考》

1. 遅刻・早退は20分まで出席扱い（当該日の授業点を減点します）とします。やむを得ず20分を超えそうな時は出席扱いとはなりません。授業内容が毎回つながりをもちますので、そのようなときでも必ず出席してください。
2. 身だしなみとエチケット（つめ・髪・服装・靴等の清潔感）を心がけてください。
3. 毎回受講進捗表に必要事項を記入し指導者から必ずサインをもらってください。
4. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、授業終了時には次の使用者のために清潔を心がけてください。特に室内は飲食厳禁はもちろんのこと、携帯電話の使用も厳禁（発覚の際は当該日の授業点を減点します）です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	『器楽B』における授業内容の説明。指導者の紹介と進捗調査及び個人指導。次回の指定曲を決定。Ⅰ期に基礎編で扱わなかった曲は必ず優先し、さらに実践編の中から選曲する。
第2週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導。
第3週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導。
第4週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導。
第5週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導。
第6週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導。
第7週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導。
第8週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導。
第9週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導。
第10週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導。
第11週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導。
第12週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導。
第13週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 ※未履修曲の点検
第14週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」から研究発表会のための予備練習と不足部分を補い個人指導を行う。 ※未履修曲の点検
第15週	「うたのメルヘン」・「すいかとかぼちゃのロックンロール」から研究発表会

## 《学科教育科目》

科目名	小児保健A				
担当者名	西村 美穂代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

### 《授業のねらい及び概要》

乳幼児が心身の健全な成長・発達を達成するために、小児の生活・発達段階にかかわる基礎的な事項(心身の健康)を理解するための学習。

### 《授業の到達目標》

胎生(胎児)からの乳幼児の成長・発達、乳幼児の特性を理解することができ、小児保健の意義を学び保育者としての保育・養護に必要な知識を修得する。

### 《テキスト》

新改訂版「わかりやすい小児保健」 第二版 西村口三 編著 同文書院

### 《参考文献》

その都度、提示する。

### 《成績評価の方法》

小テスト(30%)、VTR視聴(学習)のレポート提出(20%)、定期試験(50%)  
 「授業欠課回数が授業実施回数(15回)の3分の1以上欠課した学生は単位を与えない」  
 但し、正当な欠課理由がある場合には、その証明となるものを提出すること。

### 《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴します。  
 テレビの特性である動画・声・音から、目・耳を通して、子どもの様々な特徴や親の子どもに対するおもしろい・かかわり方を感じ取り、授業時にイメージできるようにしておいてください。  
 番組は次の2番組を予定します。

1. よみうりテレビ「ten! [めばえのコーナー]」(月曜日～金曜日・18:52～18:57)
2. NHK教育テレビ「すくすく子育て」(毎週土曜日・21:00～21:29) ※番組内容(テーマ)は、毎週異なります。

### 《備考》

ニュースや新聞等での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を、講義に取り入れることもありますので注目しておいてください。

子どもを育てる職業を目指す皆さんであり、授業では人の話しを聴く・聴講のマナーを守る、という態度を示してください。

### 《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	開講にあたり担当者と学生との共通理解事項 小児保健Aの学習目的・展開方法 各自がもつ健康な子どものイメージ
第2週	小児期の区分(新生児～思春期) 出生前期の成長発達の特徴
第3週	出生前期の子どもの成長発達・健康を保持増進するための取り組み
第4週	新生児の成長発達(形態的・機能的・精神的)の特徴(VTR視聴)
第5週	新生児期の子どもの成長発達・健康を保持増進するための取り組み
第6週	乳児の成長発達の特徴(乳児期全般の特徴)(VTR視聴)
第7週	乳児の成長発達の特徴(各時期ごとの主な体と心の発達)
第8週	幼児の成長発達・健康を阻害する要因
第9週	幼児期前期・幼児期後期の養護
第10週	乳幼児の健康管理と身体発育の評価
第11週	乳児期の食生活と食教育 小児期の食生活の特性
第12週	予防接種(保育所・幼稚園での予防接種の意義)
第13週	予防接種(ワクチンの種類と特徴)
第14週	小児保健対策(主に新生児対策と乳幼児対策について) 小児保健統計(人口・出生・死亡)
第15週	母子保健サービスによる主な健康支援事業(主に病後児保育について) 「健やか親子21」の取り組み 2週目～14週目迄のまとめ

《学科教育科目》

科目名	児童福祉				
担当者名	杉山 貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

現代社会における児童福祉の現状と課題について学習します。

保育士は保育、子育て支援の専門職であることを認識し、児童福祉での学びが実践活動に活かせるようにすることを目指します。

《授業の到達目標》

現代社会における児童の実態を理解し、児童の福祉問題について主体的に考えることができるようにします。

《テキスト》

『保育士養成テキスト3 児童福祉』 山野則子・金子恵美編著 (ミネルヴァ書房)

『保育福祉小六法2010』 小六法編集委員会編 (株式会社みらい)

《参考文献》

授業中に紹介する予定です。

《成績評価の方法》

テスト(100%)で評価します。

《授業時間外学習》

テキストに沿って授業は進めます。シラバスで授業の進捗を確認し、事前にテキストを読んでおいてください。

《備考》

本授業は、保育実習Ⅰ(施設実習)に連動しています。保育士として必要な児童の福祉に関する専門的知識を学ぶ場です。理解できるよう平易に説明するよう努めますので、学生の皆さんも「授業時間外学習」を充実させて授業に臨むことをお願いしておきます。

なお、午後クラスは受講生が少人数になりますので、毎時間受講生の意見を述べる時間を設け、受講生間及び教員との意見交換を行う予定です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保育者と児童福祉 現代の子どもの姿とその保護者の状況を概観し、保育者に何が求められているのか、本授業で何を学ぶのかについて、説明します。
第 2 週	児童福祉の理念とその歴史的展開 児童福祉理念の変遷を概観し、「児童の権利に関する条約」に謳われる子どもの権利のとらえ方を理解します。
第 3 週	わが国の児童福祉に関する制度と福祉機関・施設 児童福祉を支える法律、制度とその実施機関について学習します。
第 4 週	児童福祉の現状と課題・1 少子化対策と子育て支援に関する児童福祉サービスの変遷と実情について学習します。
第 5 週	児童福祉の現状と課題・2 健全育成について、主に児童厚生施設の実態について学習します。
第 6 週	児童福祉の現状と課題・3 母子保健サービスの目的・意義、実施体制等について理解し、児童福祉における健康診査の意義について学習します。
第 7 週	児童福祉の現状と課題・4 保育サービスの今日的意義と目的について理解し、保育所の歴史と役割の変遷についても学習します。
第 8 週	児童福祉の現状と課題・5 児童虐待が増加する現状を分析し、虐待防止に関する施策と保育者の役割について考えます。
第 9 週	児童福祉の現状と課題・6 障がいのある子どもとその保護者への支援について学習し、早期療育の意義について考えます。
第 10 週	児童福祉の現状と課題・7 社会的養護について、児童福祉施設の種別とその目的を理解します。また、家庭的養護についても学習します。
第 11 週	児童福祉の現状と課題・8 少年非行の実態を概観し、児童自立支援施設の内容と役割について学習します。また、情緒障がいについての理解を深めます。
第 12 週	児童福祉の現状と課題・9 ひとり親家庭の動向について分析し、その支援策を学習します。母子生活支援施設の実情、父子家庭の福祉施策についても触れ、その課題について考えます。
第 13 週	諸外国の現状 視聴覚教材を活用し、スウェーデンの保育所の実態を捉え、わが国の実情と比較検討します。そして、児童福祉の理念を踏まえた保育所のあり方について考察します。
第 14 週	児童福祉の実践と児童福祉従事者 児童福祉の専門職について確認し、関連機関の連携、援助方法について、事例を通して学習します。
第 15 週	学習のまとめ 児童福祉に関する学習を振り返り、保育実習及び将来の進路の選択に役立てられるよう、各自課題を見出します。

《学科教育科目》

科目名	保育原理 I A				
担当者名	福田 規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

今の社会に必要なとされる保育について、システムや法令、実態を含め真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、多様な保育ニーズや社会変化を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。

《授業の到達目標》

保育とは何かを問い続けることは子どもを理解すること、保育のあり方について探求することであり、それは自らの子ども観・保育観の形成、向上につながっていくものである。この講義では、保育の基本原則を学ぶことを通して乳幼児期における保育の意義について概観し、その内容の基盤を多様な角度から考察する中で、保育者として必要な基礎的知識の習得を目指す。つまり保育実践にあたり必要となる基本的な知識の習得と自らの保育や子どもへの想いを自覚することを目指します。

《テキスト》

- 『新・保育原理』一すばらしき保育の世界ー (みらい 2009)
- 『最新保育資料集2010』森上史朗編 (ミネルヴァ書房 2010)
- 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 (フレーベル館 2008)
- 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 (フレーベル館 2008)

《参考文献》

- 『フレーベルの生涯と思想』荘司雅子著 (玉川大学出版部 1984)
  - 『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳 (新潮社 1996)
  - 『クリティカル進化論』道田泰司・宮元博章著 秋月りす画 (北大路書房 1999)
  - 『子どもの世界をどうみるか』津守真著 (NHKブックス 1987)
- その他授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等 (20%) と筆記試験 (80%) の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。授業回数の 1/3 を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

講義終了時に次回講義の予告を行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。学びにはリフレクションが重要です。よって講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組んでください (例えば子どもに関する新聞記事のスクラップやネットを利用した情報収集、メディアを駆使したレポート課題の提出等)。

《備考》

全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。幼稚園教育要領や保育所保育指針をはじめ、法令を見ることも多いので『最新保育資料集』を忘れないこと。子どもに関する情報を様々なメディアを通じて自分でも収集することに努めること。また実際の子どもの観察する機会を多く持つてほしい。予習、復習に当たった疑問は、講義時やオフィスアワー等を利用して遠慮なく質問してください。保育者を目指すにあたり、出席や受講態度、事前準備に気をつけること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業へのオリエンテーション、保育の意味を考えるー保育とは
第 2 週	保育の意味を考えるーなぜ保育が必要なのか
第 3 週	保育の場について知るー家庭
第 4 週	保育の場について知るー保育施設
第 5 週	保育の思想とその歴史を学ぶー諸外国
第 6 週	保育の思想とその歴史を学ぶー日本
第 7 週	保育の思想とその歴史を学ぶー保育制度の成立
第 8 週	どのように保育を考え進めるべきかを考えるー保育所保育指針
第 9 週	どのように保育を考え進めるべきかを考えるー幼稚園教育要領
第 10 週	どのように保育を考え進めるべきかを考えるー子ども理解と保育観
第 11 週	保育の内容を学ぶー基本的な考え方
第 12 週	保育の内容を学ぶーねらい、内容、領域とは
第 13 週	保育課程・教育課程について学ぶー計画するとは
第 14 週	保育課程・教育課程について学ぶー保育課程・教育課程の実際
第 15 週	まとめ・筆記試験

**《学科教育科目》**

科目名	養護原理 I				
担当者名	藤本 政則				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

今日の子育て家庭の全体的な状況を説明し、社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景等を理解する。また社会的養護体系についても説明し、保育所以外の児童福祉施設の役割やその養護の実際について理解する。さらにそこでの援助者としての保育士の役割についても理解する。

**《授業の到達目標》**

保育所以外の児童福祉施設における処遇を体系的に理解する。

**《テキスト》**

『改訂3版・保育士養成講座 第8巻 養護原理』新・保育士養成講座編纂委員会編（全国協議会社会福祉 2007）

**《参考文献》****《成績評価の方法》**

下の2方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「1」が3割、「2」が7割とする。

1. 出席状況、授業態度、保育士資格取得に対する意欲等の評価。
2. 筆記試験による評価（単位取得に必要な知識等を評価。試験問題は主に語句説明ならびに論述問題によって構成。）

**《授業時間外学習》**

- ・毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
- ・授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

**《備考》**

- ・各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
- ・授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	養護における子ども観
第 2 週	養護における子ども観－「子どもの権利」をどう考えるか－
第 3 週	児童と養護－家庭や社会の役割－
第 4 週	児童と養護－社会的養護を必要とする子どもたち－
第 5 週	児童と養護－児童養護の歴史 1－
第 6 週	児童と養護－児童養護の歴史 2－
第 7 週	施設における児童養護－施設で生活する子どもたち－
第 8 週	施設における児童養護－施設養護の特質－
第 9 週	施設における児童養護－施設養護の基本原則 1－
第 10 週	施設における児童養護－施設養護の基本原則 2－
第 11 週	児童養護の制度とその領域－児童養護の制度 1－
第 12 週	児童養護の制度とその領域－児童養護の制度 2－
第 13 週	児童養護の制度とその領域－児童養護の領域 1－
第 14 週	児童養護の制度とその領域－児童養護の領域 2－
第 15 週	学習のまとめと筆記試験

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者名	三井 圭子・宮川 和三				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を学び、保育をする力を身に付ける

《授業の到達目標》

幼稚園見学観察実習に関する事前指導を行う。幼児の成長発達を理解し、幼児の姿、活動をどうとらえるかを学ぶ。保育者の子どもへのかかわりや、対応の姿から幼児教育への理解を深め、保育の知識や技術を学ぶ。幼児の遊びを理解し、意欲的に子どもとかわり合うことの大切さを学び、保育の基本を知る。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』  
『実習の手引き』【授業で配布】  
『実習日誌の書き方』（萌文書林）

《参考文献》

授業中に適宜紹介  
プリント配布

《成績評価の方法》

最終的評価になるが 授業中に課す提出物（10%）発表内容及び授業態度（20%）実習園の評価（70%）とし評価する。

《授業時間外学習》

次回の授業に提出物がある場合は、必ず提出できるように準備しておくこと。

《備考》

教育実習を受ける資格条件をしっかりと理解し、遵守する。  
欠席、遅刻、早退をしない。やむを得ず欠席、遅刻、早退をした場合は、必ず保育研究室に連絡をし、担当者から指示を受けるようにする。  
積極的、意欲的に取り組み、授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。  
提出物の期限は必ず守ること。（期日を過ぎれば受けとらないこともある）  
教材研究をする場合があるので、ハサミ、のり、セロテープ、ホッチキス、クリップ等を常に携帯しておくこと

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 2 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 3 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 4 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 5 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 6 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 7 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 8 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 9 週	教育実習の考え方と心得 授業の進め方 見学観察実習について
第 10 週	教育実習の意義と学ぶべきことについて 幼稚園教諭の役割と仕事の理解 VTR 視聴 「幼稚園教諭の一日」
第 11 週	幼稚園の役割について 幼稚園教育の基本について
第 12 週	幼児の発達と幼児理解 子どもと保育者とのかかわりについて VTR 視聴 「保育の中でのかかわり」
第 13 週	環境による教育について 環境構成を考える
第 14 週	幼児の遊びについて 遊んでいる幼児の活動や姿のとらえ方について
第 15 週	指導計画の作成について 見学観察実習の記録の書き方について

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅰ				
担当者名	井上 眞美子・福田 規秀				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	1年・通年

《授業のねらい及び概要》

保育所実習（見学観察実習 1月2週間）及びこの実習に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義、具体的な内容・方法・心構え、実習後の新たな課題の発見などについて、事前・事後指導を行います。

《授業の到達目標》

事前指導：保育所実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。

守秘義務や人権の尊重等実習中の心構えや実習課題について理解する。

事後指導：実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習Ⅱに備える。

保育所実習：保育所の生活を体験し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能や保育士の職務内容についての理解を深める。

《テキスト》

『よくわかる保育所実習（第三版）』 百瀬 ユカリ（創成社 2009）

『実習日誌の書き方』 相馬 和子他編（萌文書林 2004）

『実習に行くまえに知っておきたい保育実技』 久富 陽子編（萌文書林 2003）

《参考文献》

『保育福祉小六法 2010年版』 保育福祉小六法編集委員会編（みらい 2010）

『保育所保育指針解説書』 厚生労働省編（フレーベル館 2008）

あとプリントを配付するほか、その都度紹介します。

《成績評価の方法》

事前・事後指導への出席は1/3規定を適用しない（全出席を前提とする）。

保育所実習に関する保育実習Ⅰの評価は、実習施設の評価（60%）、事前学習（20%）、事後学習（20%）で総合的に評価する。

なお、最終的な保育実習Ⅰの成績は、施設実習の評価を加え総合的に評価する。

《授業時間外学習》

日頃から子どもたちの言動に興味がいよう心がけてください。出来ればその中で面白いと思ったことを書きとめてください。「子どもからの発見」ということで提出を求める可能性があります。

「子どもの文化」に敏感であってください。学生諸君も幼い頃夢中になったものがいくつかあったはずですよ。おもちゃでもテレビでもお菓子でもファッションでも何でも結構です。文字ベースだけでなく、マルチメディア的表現でその説明を求めるかもしれません。

「自分の得意ワザ」を見つけておいて下さい。それを使って子どもたちとの遊びを考えてもらいます。

図書館の絵本コーナーやおもちゃ屋さん、ホームセンター等に出かけ、実習に使えるかもしれないものを発見しておいて下さい。

学生諸君の好奇心が子どもに負けないものになれば、きっと実習の結果もそれなりに出るでしょう。

他の誰の実習でもない、あなたが望んでいく実習です。あなたがせずして誰が子どもの相手をするのですか??

《備考》

1. 保育実習Ⅰは「保育所実習」「(保育所以外の児童福祉施設での)施設実習」「それぞれの実習の事前・事後指導」からなっており、すべてを受けなければなりません。

2. 欠席・遅刻・早退をしないこと。やむをえず欠席・遅刻・早退の場合は、必ず保育研究室へ連絡すること。また後日、担当者の指示をうけること。

3. 掲示により緊急連絡することもあります。掲示（ピロティと保育研究室）を見て行動すること。

4. 講義中に行う実技演習には積極的に参加すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	事前指導 保育実習とは（実習全体の説明）
第2週	事前指導 保育所の概要と実習の様子（視聴覚教材）
第3週	事前指導 保育所実習希望受け付け 内諾について
第4週	事前指導 保育所の施設設備、機能の概要 保育士の職務内容 個人票記入
第5週	事前指導 実習課題の作成 実習記録について（観察の視点）
第6週	事前指導 実習先でのオリエンテーションについて 実習記録について（各所の書き方）
第7週	事前指導 実習記録について（全般的注意） 細菌検査
第8週	事前指導 直前指導 実習中の心構え・諸注意 配布物の確認 実習終了後の日程
第9週	事後指導 実習を振り返っての全体討議 アンケート・自己評価等
第10週	事後指導 実習を振り返ってのグループ討議 保育実習Ⅱに向けて
第11週	
第12週	
第13週	
第14週	
第15週	

**《学科教育科目》**

科目名	発達心理学				
担当者名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

人間の生涯にわたる発達のプロセスを理解することを目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達のプロセスを発達段階にわけ、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。

**《授業の到達目標》**

- 誕生から死にいたるまでの生涯発達のプロセスを理解できるようになること。
- 保育者として一人の人間の発達を「見つめる」視点を身につけること。

**《テキスト》**

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

**《参考文献》**

- 『よくわかる発達心理学』 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編） ミネルヴァ書房 2004
- 『図でわかる発達心理学』 新井邦二郎（編著） 福村出版 1997
- 『新版発達心理学への招待』 柏木恵子・古澤頼雄・宮下孝広（著） ミネルヴァ書房 2005
- 『キーワードコレクション発達心理学[改訂版]』 子安増生・二宮克美（編） 新曜社 2004

**《成績評価の方法》**

最終回に行う授業目標の到達度評価（テスト）100%

**《授業時間外学習》**

参考文献として挙げた文献などを読むことで、授業中に取り上げたテーマについて理解を深めること。

**《備考》**

「発達心理学」が必修科目になっている意味を理解したうえで、授業に参加してください。ただ授業に来るだけ、プリントをもらうだけでは、単位取得は困難です。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（発達心理学では何を学ぶか）
第 2 週	人が発達するとはどういうことか？
第 3 週	人間の発達を支える遺伝と環境
第 4 週	胎児期・新生児期
第 5 週	新生児期・乳児期
第 6 週	乳幼児期 その1
第 7 週	乳幼児期 その2
第 8 週	幼児期・児童期 その1
第 9 週	幼児期・児童期 その2
第 10 週	幼児期・児童期 その3
第 11 週	青年期
第 12 週	青年期から成人期
第 13 週	成人中期・後期
第 14 週	まとめ：人間の生涯発達をふりかえる
第 15 週	授業目標の到達度評価(テスト)

《学科教育科目》

科目名	青年心理学				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2.選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

子どもから大人への過渡期にある青年のこころを、自己意識の発達や自己形成という観点から理解し、青年の自立と成長への支援とは何かを考える。

《授業の到達目標》

青年期の特異性や意味を学び、自己意識や自我の発達と成長の過程を追っていく。青年期を前期、中期、後期に3区分し、それぞれの時期特有の心理を理解し、さらに現代青年を取り巻く文化や時代が青年の人間発達に及ぼす影響を考える。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中適宜紹介する

《成績評価の方法》

平常点 30%、筆記試験 70%

《授業時間外学習》

青年や若者の文化・ことば・ファッション、事件などについての記事を新聞、雑誌、web 上から探し、レポートする。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	*オリエンテーション *青年心理学の目的と方法 *青年心理を考える枠組み *青年期の課題
第 2 週	青年心理学の研究法
第 3 週	I.青年期のはじまり *プレ思春期から青年期へ *自我の目覚めと自律への欲求
第 4 週	*揺れ動く青年の感情 *不安定と敏感
第 5 週	*性のめざめ *性と愛に向き合うということ
第 6 週	II 青年期の葛藤 *理想と現実の矛盾 *自己主張と反抗・異議申し立て
第 7 週	*思考と感情の特徴 *感情の論理
第 8 週	III.青年期後期の心理 自我同一性の確立と形成 その1
第 9 週	*自我同一性の確立と形成 その2 *本当の自分探しとモラトリアム
第 10 週	*将来を考える *生活設計の開始
第 11 週	*職業・キャリアを考える
第 12 週	*現代の青年の実像と社会問題 ニート、フリーター、引きこもり
第 13 週	*青年の人間関係（仲間・家族）
第 14 週	*「大人になる」とは
第 15 週	まとめ

《学科教育科目》

科目名	保育課程総論				
担当者名	藤井 恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

- ・ 教育課程・保育計画の全体構造・具体的な編成等を知る。
- ・ 保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する環境構成、保育の内容について考える。
- ・ 保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性の関係について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・ 教育課程・保育計画の意義や目的を十分に理解し、理論と実践をつなぐことができる。
- ・ 子どもの発達の過程を視点においた教育課程と保育計画に関する基礎的な知識を習得する。

《テキスト》

「教育課程総論」 小田 豊・神長美津子編著 北大路書房

《参考文献》

「教育課程・保育計画総論」 芝崎正行・戸田雅美編 ミネルヴァ書房  
 「幼児教育課程・保育計画総論」 森上史朗・阿部明子編著 建帛社  
 「幼稚園教育要領」  
 「保育所保育指針」

《成績評価の方法》

定期テスト50%、レポート30%、受講態度20%

《授業時間外学習》

- ・ 次回の授業範囲を予習しておくこと。特に、教科書をよく読んでおくこと。
- ・ 適宜、課題を出すので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめてきてください。
- ・ 授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめておいてください。

《備考》

- ・ 幼稚園・保育所に関する情報（新聞やニュースなど）を常に、意識して収集しておいてください。
- ・ 教科書は必ず持参してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（授業の目的、内容、方法、評価などについて） 保育とは何か
第 2 週	保育内容の変遷と教育課程
第 3 週	教育課程編成の意義と役割・基本的な考え方
第 4 週	幼児の遊びと学び
第 5 週	教育要領と教育課程の編成（保育内容としての「領域」・総合的な指導）
第 6 週	発達の理解と教育課程の編成
第 7 週	特色ある幼稚園づくりと教育課程の編成
第 8 週	指導計画の作成の手順 ①
第 9 週	指導計画の作成の手順 ②
第 10 週	幼稚園における教育課程編成の実際
第 11 週	保育所における保育計画 ①
第 12 週	保育所における保育計画 ②
第 13 週	現代社会と保育内容の課題
第 14 週	さまざまな保育課題と保育内容
第 15 週	現代の保育内容と実践のあり方について

《学科教育科目》

科目名	保育内容・言葉				
担当者名	米田 妙子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

ことばは日常の生活の中で、人との関わりの中で獲得される。そのことばを使ってものを認識し、思考し、想像力や創造力を育み、人間として成長していく。

乳幼児の発達とことばを獲得していく道筋を学習し、指導や支援のあり方について考える。

《授業の到達目標》

- ・領域「言葉」に示された「ねらい」「内容」を理解し、ことばの指導や支援の方法を理解する。
- ・ことばの機能を認識し、説明できる。
- ・ことばを獲得していく上で、母子相互関係の重要性を認識し、説明できる。
- ・ことばを獲得していく道筋を理解し、子どもとのかかわり方を身につける。
- ・子どもが絵本や昔ばなし等の文化財から得るものを認識する。
- ・パネルシアターを作製し、製作技術や演じ方を身につけ、感性を養なう。

《テキスト》

『保育内容・言葉』阿部明子編著（建帛社）

『保育所保育指針』

『幼稚園教育要領』

《参考文献》

- ・人と人のかかわりを育てるシリーズ（幼児編）『育つ・育てる』②言葉の力をのばす 藤田浩子（一声社）
- ・必要に応じ、印刷物を配布する。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）・提出物（20%）・授業態度（20%）で評価する。

《授業時間外学習》

- ・教科書、資料等の指定箇所を読んでおくこと。
- ・子どもに関するニュース・記事、「ことば」に関するニュース・記事をノートに記録しておくこと。

《備考》

- ・授業中の私語、携帯電話、飲食は厳禁。
- ・提出物は期限厳守。
- ・正当な理由のない欠席・遅刻・早退についてはチェックする。
- ・製作用具は各自必ず用意すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション ・講義の概要 ・授業のすすめ方 ・履修上の諸注意 ・領域「言葉」のねらいと内容 ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領
第 2 週	ことばの機能
第 3 週	母子相互作用の重要性
第 4 週	ことばと子どもの発達 ①ことばの獲得（1～2期）
第 5 週	②ことばの獲得（3～4期）
第 6 週	③ことばの獲得（5～6期）
第 7 週	子どもの生活とことばの指導
第 8 週	文化財とのかかわり ①絵本について
第 9 週	文化財とのかかわり ②昔ばなしからのメッセージ
第 10 週	③パネルシアターづくり
第 11 週	④パネルシアターづくり ・完成させ、演じる
第 12 週	気になることばの問題
第 13 週	文字指導について
第 14 週	ことばから国語教育へ ・就学につながる耕し
第 15 週	学習のふり返り及び筆記試験

《学科教育科目》

科目名	保育方法論				
担当者名	福田 規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育のあり方や具体的な課題を、事例等との関連の中でともに考え理解を深めていく。そして子どもたちが充実し、しかもその時期にふさわしい園生活を送れるような保育環境や保育内容のあり方について、学生間で意見を出し合い、それを実践に結びつける方策について考察を進めていく。

《授業の到達目標》

主体的に活動する子どもを援助し、子どもと一緒に保育を創る方法について、過去の知見や事例に触れながら考察する中で、保育方法についての基本的な考え方と自分なりの実践への手がかりを探索する。学生諸君はこの過程の中で、自らの子ども観、保育観を向上させ、実習で得た課題へのヒントを見いだすことが出来るはずである。

《テキスト》

『保育方法論』山本和美編著（樹村房 2002）

《参考文献》

『専門家の知恵』ドナルド・ショーン著 佐藤学・秋田喜代美訳（ゆみる出版 2005）

『マインドストーム』シーモア・ペパート著 奥野貴世子訳（未来社 1995）

『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館 2008）

『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』文部科学省（チャイルド本社 2005）

『幼稚園教育指導資料第4集 一人一人に応じる指導』文部科学省（フレーベル館 2006）

その他授業中随時紹介する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（20%）と筆記試験（80%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

講義終了時に次回講義の予告を行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。

学びにはリフレクションが重要です。よって講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。

適宜課題を出すので真面目に取り組んでください（例えば実習で出会った遊具についてのレポート、小さい頃に居心地のよかった場所についてのイメージ表現やメディアを駆使した課題の提出等）。

《備考》

全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。

保育原理1Aで購入した『最新保育資料集』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』を持参のこと。

授業への積極的な参加（質疑応答等）をのぞむ。逆に授業進行や周囲への迷惑行為は厳禁である。

子どもとメディアについて柔軟な思考で対応できるよう情報を少しでも自分で収集しておくこと。講義に持参した遊具は積極的に触ってください。

重ねて保育者になるにふさわしい出席・受講態度・事前準備を期待する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業のオリエンテーション、保育方法とは
第 2 週	保育方法とは—幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の方法
第 3 週	保育方法とは—基本理念
第 4 週	幼児の発達と保育方法
第 5 週	環境による保育
第 6 週	幼児の生活・遊びと保育
第 7 週	幼児の生活・遊びと保育
第 8 週	保育形態
第 9 週	保育の計画と実践
第 10 週	幼児理解と保育方法
第 11 週	幼児理解と保育方法
第 12 週	保育の記録をどう生かすか
第 13 週	幼児教育・保育に活かす情報メディア
第 14 週	幼児教育・保育に活かす情報メディア
第 15 週	まとめ・筆記試験

《学科教育科目》

科目名	養護内容				
担当者名	藤本 政則				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。

《授業の到達目標》

児童養護施設を中心とした子どもたちの生活と援助の実際について理解すると共に、児童福祉施設の住宅支援など新たな機能について視野を広める。

《テキスト》

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考文献》

『改訂3版・保育士養成講座 第8巻 養護原理』新・保育士養成講座編纂委員会編（全国協議会社会福祉 2007）

《成績評価の方法》

下の2方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「1」が4割、「2」が6割とする。

1. 出席状況、授業態度、授業レポート、保育士資格取得に対する意欲等の評価。
2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価。）

《授業時間外学習》

- ・毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
- ・授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《備考》

- ・各講義の開始時に出欠の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
- ・授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	養護における子ども観
第 2 週	養護における子ども観－「子どもの権利」をどう考えるか－
第 3 週	児童と養護－社会的養護を必要とする子どもたち－
第 4 週	施設における児童養護－施設養護の特質－
第 5 週	施設における児童養護－施設養護の基本原理 1－
第 6 週	施設における児童養護－施設養護の基本原理 2－
第 7 週	施設における児童養護－施設で生活する子どもたち①－
第 8 週	施設における児童養護－施設で生活する子どもたち②－
第 9 週	施設養護の実践と方法－施設の生活とケアワーク①
第 10 週	施設養護の実践と方法－施設の生活とケアワーク②
第 11 週	施設養護の実践と方法－施設の生活とケアワーク③
第 12 週	施設養護の実践と方法－施設の生活とケアワーク④
第 13 週	施設養護の実践と方法－施設の生活とケアワーク⑤
第 14 週	施設養護の実践と方法－施設の生活とケアワーク⑥
第 15 週	学習のまとめと筆記試験

## 《学科教育科目》

科目名	乳児保育 I				
担当者名	若林 宏子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

### 《授業のねらい及び概要》

児童福祉法、母子保健法などにおいて、乳児は「満1歳に満たない者」と定義されているが、ここでは0, 1, 2歳児の発達と保育について学ぶ。  
乳児保育の歴史から現状・課題も含め、保育所・乳児院および子育て支援施設の役割ならびに乳児保育に必要な理論、俊樹、技術を学ぶ。

### 《授業の到達目標》

- 乳児の発達について捉え説明できる
- 乳児の生活と健康について理解し説明できる
- 乳児のあそびと対人関係について実際にどう関わるか、遊具作り、絵本の読み聞かせ等を実践し学びあう
- 保育計画の立て方について基本を学び、説明できる
- 保護者対応について子育て支援の実際について学び、理解する

### 《テキスト》

『乳児保育の新時代』（ひとなる書房）

### 《参考文献》

- 『保育所保育指針』
- 『保育福祉小六法』
- 『乳児保育』（大阪保育研究所）

### 《成績評価の方法》

課題レポート（30%）、定期試験（50%）遊具づくり、適宜実施の小レポート（20%）

### 《授業時間外学習》

課題に沿ったレポート作成のための調査活動、授業内容を知らせテキストを読んでおく。

### 《備考》

私語を慎み、授業に集中することは互いに学びあう場をつくるために必要なことである。  
提出物の期限を守ること。  
適宜VTRなどを使用し、理解の援助となるよう配慮する。

### 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション・乳児の概念・乳児保育の概念
第 2 週	乳児保育のこれまでとこれから
第 3 週	乳児保育のこれまでとこれから
第 4 週	乳児の発達と保育・VTR「赤ちゃんからのメッセージ」
第 5 週	乳児の発達と保育 0歳児
第 6 週	乳児の発達と保育 1歳児
第 7 週	乳児の発達と保育 2歳児
第 8 週	乳児の発達と保育 3歳児
第 9 週	乳児の生活と健康 0歳児
第 10 週	乳児の生活と健康 1歳児
第 11 週	乳児の生活と健康 2・3歳児
第 12 週	乳児保育の内容と保育 0・1歳児
第 13 週	乳児保育の内容と保育 2・3歳児
第 14 週	保育計画・保育者のあり方
第 15 週	乳児保育のまとめ

# 平成 21 年度 (2009 年度) 入学者



# カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成21年度（2009年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当 (数字は適当授業時間)						備考	
			必修	選択			1年		2年		3年			
							I	II	I	II	I	II		
学科教育科目	保育方法論	講義		2	◆			2						
	養護内容	演習		1		●		2						
	乳児保育Ⅰ	演習		2		●	2							☆
	乳児保育Ⅱ	演習		2		○						2		☆
	障害児保育	演習		1		●			2					
	教育相談	講義		2	◆							2		
	総合演習	演習		2	◆	●							2	☆

(注意)

- ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
- ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。
- 印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
- 印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育 A				
担当者名	吉良 武志				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

子どもたちと一緒に歌ったり楽器を弾いたりして、音楽の楽しさを味わうことは、とても大切なことです。保育者にとって必要な音楽に関する基本的な知識の獲得や音楽的技能の養成を目標とします。ML（ミュージック・ラボラトリー）を利用したこどもの歌の弾き歌い練習をはじめ、アンサンブルの学習、ソルフェージュの指導、鑑賞などを通して音楽的資質を高め、さらに、楽譜の演奏にとどまらず、コードネームによる伴奏法や即興演奏能力も身につけることを期待します。また、鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器の奏法にも習熟し、子どもたちと一緒に音楽の楽しさを共有できる保育者を目指してほしいものです。

《授業の到達目標》

I期の授業では、実践的な音楽的技能の養成から取り組みます。

- 子どもたちの前で手遊び歌や指遊び歌をうまく歌え、表現できる。
- 子どもたちと一緒にピアノを弾きながらうまく歌える。
- コードネームによって子どもたちの歌に即興的な伴奏ができる。
- 子どもたちと鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器による合奏ができる。また、その指導ができる。
- 紙芝居やペープサート、人形劇などに音楽を効果的に使用できる。
- 音楽を用いた保育への導入に際して、子どもたちに興味のあるお話ができる。

《テキスト》

授業の中で、適宜紹介します。また、必要に応じてプリント教材を配布します。

《参考文献》

授業の中で、適宜紹介します。図書館等で一読されることを望みます。

《成績評価の方法》

グループ発表やピアノの弾き歌い発表の内容（50%）、授業のまとめやレポート等の提出物（30%）、そして、実技を伴った授業内容ですので、出席状況等に見られる学習に取り組む姿勢（20%）で評価します。

《授業時間外学習》

音楽に関わる基本的な技能の上達には、毎日の反復練習と各自の熱意がとても大切です。何よりも音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう学習に励むことを期待します。多くのこどもの歌に触れ、弾き歌い曲や得意な曲のレパートリーを増やしましょう。

《備考》

- ・ 単に知識を得ることにとどまらず、実際に歌い、演奏し、動くことを通して、どのようにして子どもたちと音楽の楽しい感動体験を共有すればいいのか学びましょう。
- ・ MLを利用した弾き歌いの練習の際には、演奏技能とともに、表情豊かな演奏やソルフェージュ力の向上なども目指しましょう。
- ・ 学習内容の進捗状況により、授業計画が前後する場合があります。
- ・ 楽器などの取り扱いには細心の注意を払い、また、清潔にするよう心がけましょう。
- ・ 繰り返しますが、毎日の練習がとても大切です。長期休暇中も学習に励んで下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	受講に際して、本授業の内容や留意点、準備物などの徹底。グループ分け作業。（音楽劇等の発表を予告）保育における音楽活動の意義。保育への導入としての手遊び歌（指遊び歌を含む）、一例を紹介、練習。
第 2 週	手遊び歌の教育的重要性を認識しながら、いくつかの歌を紹介し、練習する。（ピアノ伴奏練習も含む）
第 3 週	先週の手遊び歌に加え、数曲練習。新たな曲の創作。（この段階では歌詞及び動きの創作）春にちなんだ歌を練習。
第 4 週	2週にわたって学習した手遊び歌、それらの歌唱、動き、ピアノ伴奏をより確実なものに仕上げる。
第 5 週	模擬保育（ロールプレイ）を想定して、手遊び歌の歌唱、動き、ピアノ伴奏を練習し、指導案を考える。
第 6 週	手遊び歌（創作曲）による模擬保育（ロールプレイ）を各自、発表。その後、それぞれ全員でのディスカッション。
第 7 週	各自が発表した手遊び歌に限らず、これまでに接した多くの曲を、将来の実習に備え、練習しまとめる。
第 8 週	お話と音楽。音楽活動への導入としてのお話。（興味付け）既存の「音楽人形劇」（数分）に対してのお話を創作。
第 9 週	コードネームによるピアノ伴奏の概説。初歩的な和音のコードネームを理解する。各自の音楽経験に合わせた練習。
第 10 週	コードネームによるピアノ伴奏法。ハ長調の2コード（トントントン、じゃんけん遊び、あく手でこんにちほ他）
第 11 週	コードネームによるピアノ伴奏法。ト長調の2コード（ふしぎなポケット、山小屋一軒、糸まきまき、かつこう他）
第 12 週	こどもの遊びと音楽。こどもの音遊び（ソルフェージュ）へのリズムとメロディ模唱の練習。夏にちなんだ歌を練習。
第 13 週	こどもの楽器遊び。楽器との出会い、手遊び歌から楽器遊びへ。鍵盤ハーモニカの指導。（メロディー模奏）
第 14 週	第1週に課したグループによる音楽を用いた紙芝居、ペープサートなどの発表内容を仕上げ、その実施計画案を作成。
第 15 週	各グループによる発表。その後、それぞれ全員でのディスカッション。 総まとめ（小レポートの作成）

《学科教育科目》

科目名	音楽教育B				
担当者名	吉良 武志				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

子どもたちと一緒に歌ったり楽器を弾いたりして、音楽の楽しさを味わうことは、とても大切なことです。保育者にとって必要な音楽に関する基本的な知識の獲得や音楽的技能の養成を目標とします。ML（ミュージック・ラボラトリー）を利用したこどもの歌の弾き歌い練習をはじめ、アンサンブルの学習、ソルフェージュの指導、鑑賞などを通して音楽的資質を高め、さらに、楽譜の演奏にとどまらず、コードネームによる伴奏法や即興演奏能力も身につけることを期待します。また、鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器の奏法にも習熟し、子どもたちと一緒に音楽の楽しさを共有できる保育者を目指してほしいものです。

《授業の到達目標》

I 期に続き保育の場に必要な音楽的技能のより高度な訓練に取り組み、さらに、音楽の基本的な理論、音楽指導の方法論にも触れます。また、こどもの歌をできるだけ多く覚え、いつでもピアノの弾き歌いができるようにするのも、この授業の重要な目標です。

- 子どもたちの前で手遊び歌や指遊び歌をうまく歌え、表現でき、また創作できる。
- 多くのこどもの歌を覚え、ピアノの弾き歌いがうまくできる。コードネームによって子どもたちの歌に即興的な伴奏ができる。
- 子どもたちと鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器による合奏ができる。また、その指導ができる。
- 紙芝居やペープサート、人形劇などに音楽を効果的に使用できる。
- 音楽を用いた保育への導入に際して、子どもたちに興味のあるお話ができる。
- 保育における音楽のもつ役割を説明できる。

《テキスト》

授業の中で、適宜紹介します。また、必要に応じてプリント教材を配布します。

《参考文献》

授業の中で、適宜紹介します。図書館等で一読されることを望みます。

《成績評価の方法》

グループ発表やピアノの弾き歌い発表の内容（50%）、授業のまとめやレポート等の提出物（30%）、そして、実技を伴った授業内容ですので、出席状況等に見られる学習に取り組む姿勢（20%）で評価します。

《授業時間外学習》

音楽に関わる基本的な技能の上達には、毎日の反復練習と各自の熱意がとても大切です。何よりも音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう学習に励むことを期待します。多くのこどもの歌に触れ、弾き歌い曲や得意な曲のレパートリーを増やしましょう。

《備考》

- ・ 単に知識を得ることにとどまらず、実際に歌い、演奏し、動くことを通して、どのようにして子どもたちと音楽の楽しい感動体験を共有すればいいのか学びましょう。また、毎日の練習がとても大切です。長期休暇中も学習に励んで下さい。
- ・ MLを利用した弾き歌いの練習の際には、演奏技能とともに、表情豊かな演奏やソルフェージュ力の向上なども目指しましょう。
- ・ 学習内容の進捗状況により、授業計画が前後する場合があります。
- ・ 楽器などの取り扱いには細心の注意を払い、また、清潔にするよう心がけましょう。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	Ⅱ期の受講に際して内容や留意点、準備物などの徹底。グループ分け確認。（Ⅰ期に続き音楽劇等の発表を予告）保育の場における音楽活動の意義をあらためて認識し、Ⅰ期の学習内容を復習する。秋にちなんだ歌をあげ考察する。
第 2 週	Ⅰ期で学習した音楽の基礎を深める。（少し複雑な二長調や変ロ長調などの理解）秋の行事にちなんだ歌を練習(1)
第 3 週	ピアノ伴奏に備え、音楽の基礎を深める。（少し複雑なコードネームなどの理解）秋の行事にちなんだ歌を練習(2)
第 4 週	コードネームによるピアノ伴奏法。ハ長調の3コード（おべんとう、すうじのうた、森の音楽会、しりとりうた他）
第 5 週	こどもの楽器遊び。さまざまな楽器の種類と奏法を理解。鍵盤ハーモニカの指導。（和音の演奏とアンサンブル）
第 6 週	模擬保育（ロールプレイ）を想定して、鍵盤ハーモニカをはじめさまざまな楽器を練習し、指導案を考える。
第 7 週	楽器を使った模擬保育（ロールプレイ）を各自、発表。その後、それぞれ全員でのディスカッション。
第 8 週	幼児音楽教育の変遷(1) 唱歌遊戯から童謡の誕生を概観する。歌い継がれた多くの文部省唱歌、童謡を取り上げる。
第 9 週	幼児音楽教育の変遷(2) 音楽リズムから保育内容領域「表現」の誕生を概観する。今日のこどもの歌を考察する。
第10週	コードネームによるピアノ伴奏法。ヘ長調の2コード（10人のインディアン、気のいいあひる、小さな庭他）
第11週	こどもの器楽合奏。さまざまな楽器を使った合奏の練習と指導法を考察する。クリスマスにちなんだ曲も取り上げる。
第12週	コードネームによるピアノ伴奏法。ト長調、ヘ長調の3コード（一年生になったら、山の音楽家、アルプス一万尺他）
第13週	お話と音楽。お話の中での音楽。（劇遊び） ミュージカルの世界を取り上げる。冬にちなんだ歌を練習。
第14週	第1週に課したグループによる音楽を用いた紙芝居、ペープサートなどの発表内容を仕上げ、その実施計画案を作成。
第15週	各グループによる発表。その後、それぞれ全員でのディスカッション。 総まとめ（小レポートの作成）

**《学科教育科目》**

科目名	造形A				
担当者名	岩見 健二				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形するkとであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験をもっていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感性を磨いてほしい。

**《授業の到達目標》**

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

**《テキスト》**

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

**《参考文献》**

適宜指示する。

**《成績評価の方法》**

- ・授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・作品評価（100%）

**《授業時間外学習》**

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

**《備考》**

特になし

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	クロッキー
第 3 週	鉛筆デッサン
第 4 週	鉛筆デッサン
第 5 週	鉛筆デッサン
第 6 週	水彩画（静物）
第 7 週	水彩画（静物）
第 8 週	水彩画（静物）
第 9 週	色彩指導
第 10 週	色面構成
第 11 週	色面構成
第 12 週	色面構成
第 13 週	色面構成
第 14 週	色面構成
第 15 週	子供の絵の見方

《学科教育科目》

科目名	造形A				
担当者名	柳楽 節子				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

楽しい造形遊びを園児たちに伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知ることが必要である。この演習授業では、造形の基礎となる描写力、色彩の知識、構成力を楽しみながら養えるよう授業を進めていく。眼と手と頭、そして体全体を使って、受講生が造形の面白さを発見できる力を養うことを目標としている。

《授業の到達目標》

- \* 自分の好きな色、形、絵本、物語について説明することができる。
- \* 出された課題に対して、手際よく作業を進めることができる。
- \* 造形の分野で、得意とする内容を挙げるができる。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考文献》

なし

《成績評価の方法》

- ・提出作品100%で成績評価を行う。
- ・授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《授業時間外学習》

- ・各授業時に、授業の事前準備及び事後の補足作業を指示する。

《備考》

- ・事前に連絡された、材料用具は当日必ず持参して下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	担当者自己紹介 学生による自己紹介の作品の制作と提出。
第 2 週	描写 植物
第 3 週	描写 静物
第 4 週	描写 人物
第 5 週	描写 着彩 1
第 6 週	描写 着彩 2
第 7 週	色彩の知識
第 8 週	色彩構成 1
第 9 週	色彩構成 2
第10週	色彩構成 3
第11週	色彩構成 4
第12週	色彩構成 5
第13週	描写・色彩構成作品による立体作品制作
第14週	描写・色彩構成作品による立体作品制作
第15週	作品提及びまとめ

《学科教育科目》

科目名	造形A				
担当者名	満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育現場での造形遊び（お絵描き遊び）で生かせる基礎（描写、色彩、色彩構成）や道具の扱い方を学びます。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を使い好きなように表現します。材料や道具に十分に馴れることで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ、それを絵や工作に表したくなってしまいます。世界でたった一つのもので、自分の力だけでつくる。言葉でいいあわせない気持ちを、存分に出すことができます。まずは、小さな思いをコンセプトに、小さな作品から制作します。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案します。

《授業の到達目標》

- 鉛筆を使いこなし自由に表現できるようになる。
- 色と形を楽しみ、大胆さや繊細など幅広く表現できるようになる。
- 素材や道具の特徴や特性を学び使いこなす。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）  
毎時間ごとにシラバスと参考資料を配布します。

《参考文献》

お絵描きあそび アトリエ・リュミエール 鈴木あきこ（主婦の友）

《成績評価の方法》

- ・授業出席（10回以上の出席をもって成績評価の対象とする）20％・全課題作品の提出50％・試験30％

《授業時間外学習》

- ・予習の方法／毎回、使用する素材や材料、道具を日頃から研究、収集する。
- ・復習の方法／授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べたりしてください。

《備考》

遅刻について／授業のはじめに出席をとります。その後、毎時間ごとのシラバスと参考資料の説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとします。

持物について／筆記用具、スケッチブック、色鉛筆、クレパス、水彩道具一式（絵具 筆 筆洗 パレット 台拭き）油性ペン水性ペン（各色）、ハサミ、カッター、フェキのり、スタンプ台 ※詳しくは、オリエンテーション時に説明します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション アンケート（造形あそびをする上での不安事項） 鉛筆基礎①ドリル（鉛筆の持ち方）
第 2 週	鉛筆基礎② ドリル（線の練習、消しゴム）
第 3 週	鉛筆基礎③ ドリル（立体感 マチエール、線画）
第 4 週	鉛筆基礎④ ドリル（グラデーション、遠近の仕組み、輪郭線）
第 5 週	色と形を楽しもう① こすりだし&まる、さんかく、しかくでお絵描き（エリックカール技法、エンバリーおじさん技法）
第 6 週	色と形を楽しもう② 3原色でリアルな野菜を描こう
第 7 週	色と形を楽しもう③ 村のチェロ弾き★コーヒーの香り ～子供の物語性を引き出す想像の世界～
第 8 週	スタンプ遊び① 指紋スタンプで描いてみよう
第 9 週	スタンプ遊び② キャラクター制作（時間があればストラップ制作）
第 10 週	スタンプ遊び③ 共同制作とストーリー展開（班毎）
第 11 週	きってやぶいてよーくみて① いちごがいっぱい！何にみえるかな！
第 12 週	きってやぶいてよーくみて② 巨大クッキング ～焼そば
第 13 週	重ねてコラージュ① 水きりえ ～水でぬらした小筆で色刷り新聞紙を切って貼る。
第 14 週	重ねてコラージュ② 紙ビーズのアクセサリ
第 15 週	授業計画を作ろう

**《学科教育科目》**

科目名	造形B				
担当者名	山下 彰一				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

造形活動を通して創造する楽しさを身につける。

**《授業の到達目標》**

幼児はすばらしい感性を持ち、活動的です。その個々の創造性を伸ばすには、まず保育者が、自ら身近にある事物をよく観察し、そして描き、創る、ことが大切である。そのために多くの創作体験をもつことにより豊かな感性と、創造力を養うべきです。

**《テキスト》**

オリエンテーションまでに提示します。

**《参考文献》**

授業中に適宜紹介する。

**《成績評価の方法》**

- ・作品と出席率
- ・授業は10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・提出作品（70%）と出席状況（30%）の総合評価。

**《授業時間外学習》**

作品制作は、授業時間中に終了するものではない。ねばり強く時間外においても学習すべきである。

**《備考》**

- ・作品の提出期限の厳守
- ・スケッチブック（F6）を毎授業時に持参すること。
- ・その他 水彩道具一式、カッターナイフ、色鉛筆、定規、フェキノリ、ハサミを準備すること。次回持参するものを提示します。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	鉛筆デッサン 1
第 3 週	鉛筆デッサン 2
第 4 週	鉛筆デッサン 3
第 5 週	クロッキー
第 6 週	水彩画（静物） 1
第 7 週	水彩画（静物） 2
第 8 週	水彩画（静物） 3
第 9 週	色彩指導
第 10 週	色面構成 1
第 11 週	色面構成 2
第 12 週	色面構成 3
第 13 週	色面構成 4
第 14 週	色面構成 5
第 15 週	色面構成 6

《学科教育科目》

科目名	造形B				
担当者名	満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

造形遊びをする時、人間は生活していくために必要な行動が自然に組み込まれています。穴を開ける、縫う、編む、織る、切る、貼る、並べる、繋ぐ、組み立てる、こねる、包む、描く。子供は上記の事を遊びを通して行います。このような活動の繰り返しの中で『形のなりたち』を体験することができます。園で開催される行事や展示立体作品を中心に、イベント企画を提案します。

《授業の到達目標》

- オリジナルの紙を作る（集める、並べる）
- 粘土で記念品を作る（組み合わせる、重ねる）
- ダンボール、布、缶で壁面や展示品を作る（組み換える、生かす）

《テキスト》

テキストは使用しない。毎時間ごとにシラバスと参考資料を配布します。

《参考文献》

イタリア／レッジョ・エミリア市の幼児教育実践録 子どもたちの100の言葉（学研）

《成績評価の方法》

- ・授業出席（10回以上の出席をもって成績評価の対象とする）20％・全課題作品の提出50％・試験30％

《授業時間外学習》

- ・予習の方法／毎回、使用する素材や材料、道具を日頃から研究、収集する。
- ・復習の方法／授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べたりしてください。

《備考》

遅刻について／授業のはじめに出席をとります。その後、毎時間ごとのシラバスと参考資料の説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとします。

持物について／筆記用具、スケッチブック、色鉛筆、クレパス、水彩道具一式（絵具 筆 筆洗 パレット 台拭き）油性ペン水性ペン（各色）、ハサミ、カッター、フェキのり、スタンプ台 ※詳しくは、オリエンテーション時に説明します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 課題、材料、道具の説明。アンケート
第 2 週	造形遊び① 集める、並べる 1 エリックカールの技法。紙の引き出し制作
第 3 週	エリックカールの技法。模写作品
第 4 週	集める、並べる 2 粘土でミニチュアクッキング。food 作り
第 5 週	粘土でミニチュアクッキング。盛りつけ、時間があればストラップ制作
第 6 週	集める、並べる 3 ガチャポンの風鈴（静物）1
第 7 週	造形遊び② 組み合わせる、重ねる 1 立体ワンコ。型紙切断、組み立て。
第 8 週	立体ワンコ。組み立て、張り作業
第 9 週	立体ワンコ。張り作業、ジェッソ塗り、下図犬制作
第 10 週	立体ワンコ。ジェッソ塗り、下図犬制作、本塗り
第 11 週	立体ワンコ。本塗り
第 12 週	造形遊び③ 組み換える、生かす 1 カンカン宝箱
第 13 週	組み換える、生かす 2 お昼ねテント&ふりふりフラッグ
第 14 週	造形遊び④ 全作品完成チェック後、学内にてピクニックを開催
第 15 週	年内行事『ピクニック』『遠足』『散歩』企画案を作ろう。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育A				
担当者名	宮川 和三				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

幼児の発達課題と運動

《授業の到達目標》

幼稚園、保育所教育に必要な体操、スポーツ、レクリエーション種目及び集団行動を遊びゲームを通して子どもに身につけさせる為の研究を主なねらいとし、幼児期の特徴をふまえ、実技の研修からそれぞれにふさわしい指導法を体得する。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

- 『健康』原田碩三他著（エデケーション）
- 『体操ハンドブック』浜田靖一他著（ビジネス出版）
- 『幼児期の運動遊びの指導と援助－鉄棒・跳び箱・マットあそびの補助を中心に』菊池秀範著（萌文書林）

《成績評価の方法》

各種目毎に実技試験を実施。  
毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。  
授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の実技（援助法等）についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

学生同士の協調性を求め、実技主体とする。  
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。  
授業中の携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	幼児期の発育発達の特徴について説明
第 2 週	マットを使った運動（援助法等） 〈匍匐、バランス運動〉
第 3 週	マットを使った運動（援助法等） 〈匍匐、バランス運動、ジャンプ運動〉
第 4 週	マットを使った運動（援助法等） 〈前転、後転、横転〉
第 5 週	マットを使った運動（援助法等） 〈側転、倒立、前転、後転開脚前転の組合せ〉
第 6 週	マットを使った運動（援助法等） 〈側転、倒立、前転、後転開脚前転の組合せ〉
第 7 週	〈前転、後転、開脚前転の組合せ〉 実技テスト
第 8 週	跳び箱を使った運動（援助法等） 〈踏切板の蹴りのいろいろ、跳び箱の支持とジャンプ〉
第 9 週	跳び箱を使った運動 とびのり、とびおり遊び
第 10 週	跳び箱を使った運動（援助法等） 〈蹴り、腕支持、ジャンプ、横とび〉
第 11 週	跳び箱を使った運動（援助法等） 補助法〈開脚、閉脚とび、台上前転〉
第 12 週	跳び箱を使った運動（援助法等） 〈開脚、閉脚とび、台上前転〉
第 13 週	〈開脚とび、閉脚とび、台上前転〉 実技テスト
第 14 週	ゲーム遊び
第 15 週	全体のまとめ

**《学科教育科目》**

科目名	幼児体育A				
担当者名	井上 靖				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

発達刺激としての運動遊びの実際とその分析を通して幼児体育の課題について考える。

**《授業の到達目標》**

幼児期の発育・発達について理解を深める。

**《テキスト》**

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

**《参考文献》**

「幼児とあそび～理論と実際～」秋葉秀則 労働旬報社  
「子どもの発達とヒトの進化」井尻正二 築地書館  
「ヒトのかたちと運動」服部恒明 大修館書店  
「図説遊びの事典」幼児編 村山貞雄 明治図書

**《成績評価の方法》**

- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の者には単位を与えない。
- ・定期試験70%、レポート20%、取り組む姿勢10%

**《授業時間外学習》**

新聞記事等で幼児に関する情報を収集しコメントを添えたノートを作成する。

**《備考》**

- ・服装は運動に適したものとする。
- ・医師から運動制限を告げられている場合は事前に申し出ること。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	幼児教育における幼児体育の課題
第2週	集団で仲良く遊ぶことを課題とした運動遊び
第3週	集団で仲良く遊ぶことを課題とした運動遊び
第4週	よい動きとは
第5週	位置感覚（逆さ）を課題とした運動（鉄棒）
第6週	位置感覚（回転）を課題とした運動（鉄棒）
第7週	位置感覚（回転）を課題とした運動（鉄棒）
第8週	位置感覚（空中）を課題とした運動（跳び箱）
第9週	位置感覚（空中）を課題とした運動（跳び箱）
第10週	位置感覚（空中）を課題とした運動（跳び箱）
第11週	位置感覚（回転、逆さ）を課題とした運動（マット）
第12週	位置感覚（回転、逆さ）を課題とした運動（マット）
第13週	テスト（実技）
第14週	人体の構造～子どもの発育発達と幼児期の特徴
第15週	学習のまとめとテスト

## 《学科教育科目》

科目名	幼児体育B				
担当者名	宮川 和三				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

## 《授業のねらい及び概要》

幼児の発達課題と運動

## 《授業の到達目標》

前半の内容とねらいをふまえ、保育実習後の保育現場での、それぞれの取り組み、課題について話し合い、主に実技を通して指導していく。

## 《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

## 《参考文献》

『健康』原田碩三他著（エデケーション）  
 『体操ハンドブック』浜田靖一他著（ビジネス出版）  
 『幼児期の運動遊びの指導と援助－鉄棒・跳び箱・マットあそびの補助を中心に』菊池秀範著（萌文書林）

## 《成績評価の方法》

各種目毎に実技試験を実施。  
 毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。  
 授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

## 《授業時間外学習》

毎回の実技（援助法等）についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

## 《備考》

学生同士の協調性を求め、実技主体とする。  
 服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。  
 授業中の携帯電話の使用は厳禁とする。

## 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	幼児期の発育発達の特徴について説明
第 2 週	鉄棒を使った運動（援助方法等） 〈腕支持、ぶらさがり、踏み越しおり、足ぬき、ぶたの丸やき〉
第 3 週	鉄棒を使った運動（援助方法等） 〈腕支持、逆さおり、前まわりおり、倒立おり、持ちかえおり〉
第 4 週	鉄棒を使った運動（援助方法等） 〈倒立おり、足かけあがり、逆あがり〉
第 5 週	鉄棒を使った運動（援助方法等） 〈前まわり、後まわり、逆あがり、足かけあがり〉
第 6 週	鉄棒を使った運動（援助方法等） 〈前まわり、後まわり、逆あがり、足かけあがり〉
第 7 週	〈前まわり、後まわり、逆あがり、足かけあがり〉 実技テスト
第 8 週	トランポリンを使った運動（援助方法等） 〈あがり方、おり方、とまり方、1人・2人ジャンプ〉
第 9 週	トランポリンを使った運動（援助方法等） 〈1人・2人ジャンプ、ニードロップ、シートドロップ〉
第10週	トランポリンを使った運動（援助方法等） 〈ニードロップ、シートドロップ、ニードロップ連続〉
第11週	トランポリンを使った運動（援助方法等） 〈ジャンプ1/2、ニードロップ、シートドロップ連続〉
第12週	トランポリンを使った運動（援助方法等） 〈ジャンプ1/2、シートドロップ、ニードロップ、シートドロップ連続〉
第13週	〈ジャンプ1/2、シートドロップ、ニードロップ、シートドロップ連続〉 実技テスト
第14週	ゲーム遊び
第15週	全体のまとめ

**《学科教育科目》**

科目名	幼児体育B				
担当者名	井上 靖				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

発達刺激としての運動遊びの実際とその分析を通して幼児体育の課題について考える。

**《授業の到達目標》**

幼児期の発育・発達について理解を深め現場での指導をイメージできる。

**《テキスト》**

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

**《参考文献》**

I 期参照

**《成績評価の方法》**

- ・ 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の者は単位を与えない。
- ・ 定期試験70%、レポート20%、取り組む姿勢10%

**《授業時間外学習》**

新聞記事等で幼児に関する情報を収集しコメントを添えたノートを作成する。

**《備考》**

- ・ 服装は運動に適したものとする。
- ・ 医師から運動制限を告げられている場合は事前に申し出ること。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	よい動きを課題とした運動（移動運動）～各種ステップ～
第 2 週	よい動きを課題とした運動（移動運動）～各種ステップ～
第 3 週	よい動きを課題とした運動（移動運動）～各種ステップ～
第 4 週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～ボール～
第 5 週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～ボール～
第 6 週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～ボール～
第 7 週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～なわ～
第 8 週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～なわ～
第 9 週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～なわ～
第 10 週	よい動きを課題とした運動（操作運動）～なわ～
第 11 週	よい動きを課題とした運動（スピーディーな運動）～ボールゲーム～
第 12 週	よい動きを課題とした運動（スピーディーな運動）～ボールゲーム～
第 13 週	よい動きを課題とした運動（スピーディーな運動）～ボールゲーム～
第 14 週	テスト
第 15 週	まとめ（運動指導と運動構造）

## 《学科教育科目》

科目名	小児保健B				
担当者名	西村 美穂代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

### 《授業のねらい及び概要》

小児保健Aで学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい疾患・症状・事故についての理解を深めるとともに、保育者として子どもの異変時に的確な判断が行え、対応できる力を身につける学習。

### 《授業の到達目標》

乳幼児特有の疾患・症状の理解ができ、その予防と対応方法、事故に対する安全対策・事故時の対応が行え、子どもの生命を守ることができるように知識の獲得ができる。

### 《テキスト》

新改訂版「わかりやすい小児保健」 第二版 西村口三 編著 同文書院

### 《参考文献》

その都度、提示する。

### 《成績評価の方法》

小テスト (30%)、VTR 視聴 (学習) のレポート提出 (20%)、定期試験 (50%)  
 「授業欠課回数が授業実施回数 (15回) の3分の1以上欠課した学生は単位を与えない」  
 但し、正当な欠課理由がある場合には、その証明となるものを提出すること。

### 《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴します。

テレビの特性である動画・声・音から、目・耳を通して、子どもが病気になった時の状態を知り、その対応方法を学び、授業時にその病気と対応方法が想起できるようにしておいてください。

番組は次の番組を予定します。

○NHK 教育テレビ「すくすく子育て」(毎週土曜日・21:00~21:29)

※番組内容(テーマ)は、毎週異なります。

### 《備考》

ニュースや新聞での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を講義に取り入れることもありますので、注目しておいてください。  
 通園(保育園・幼稚園)している健康な子どもたちに「命の大切さ」を教えてほしいと願う思いから、疾患についての授業では「難病にかかり死にゆく子ども」のVTRを視聴します。

子どもを育てる職業を目指す皆さんであり、授業では人の話しを聴く・聴講時のマナーを守る、という態度を示してください。

### 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	開講にあたり担当者と学生との共通理解事項 小児保健Bの学習目的・展開方法 小児保健Aの大まかな復習・確認
第 2 週	子どもに起こる主な症状と観察、その対応方法 (VTR 視聴予定)
第 3 週	子どもによくみられる先天性の病気とのかかわり方 (VTR 視聴)
第 4 週	子どもによくみられるウイルスによる感染症 乳幼児によくみられるウイルスによる食中毒とその予防
第 5 週	子どもによくみられる細菌による感染症とその他の感染症 乳幼児によくみられる細菌による食中毒とその予防
第 6 週	子どもによくみられる呼吸器の病気
第 7 週	子どもによくみられる消化器・循環器の病気
第 8 週	子どもによくみられる主な血液の病気と小児がん
第 9 週	第 8 週で学習した血液の病気(白血病)に罹患した子どもの VTR 視聴
第 10 週	子どもによくみられる腎臓・泌尿器・代謝の病気 (VTR 視聴予定)
第 11 週	子どもによくみられるアレルギー・皮膚・眼・鼻の病気
第 12 週	子どもによくみられるストレスから起こる病気とのかかわり方
第 13 週	発達段階における事故と安全管理
第 14 週	子どもの事故による救急処置: 熱中症・骨折・やけど・出血
第 15 週	子どもの毒物・異物による事故の対応 2 週目~14 週目までのまとめ

## 《学科教育科目》

科目名	小児栄養				
担当者名	大西 光子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

### 《授業のねらい及び概要》

小児期の食生活は、子どもの身体の健康や心の健康に重要な役割を果たしている。小児期に食生活の基礎をきちんと築き、将来の健康につながる正しい食習慣や、望ましい食習慣を身につけることが大切である。子どもの健やかな成長には、栄養と食生活が重要であることを理解し、

- ①体に必要な栄養素の働きを知り、
- ②自分自身が望ましい食生活が実践でき、
- ③子どもの発達段階に適した栄養と食生活に関する知識を習得し、正しい食指導ができる能力を身につける。

### 《授業の到達目標》

子どもの特性は”発育する”ことである。このことがおとなにみられない特質であり、乳児期から青年期にかけて大きく成長する時期である。

発育には、遺伝的な素因もあるが、肉体の発育には栄養が欠かせない。健康にとって食生活は重要な位置を占めている。栄養素の摂取に過不足が生じ、子どもにも生活習慣病の発症がみられる。

子どもたちに望ましい食生活を身につけさせるためには、栄養や食生活全般にわたる知識の習得が大切である。

子どもの身体の特徴を理解し、栄養に関する知識を学び、子どもの成長発達に適した望ましい食生活が指導出来るよう理解を深める。

### 《テキスト》

最新小児栄養 第6版 編集 飯塚美和子・桜井幸子・瀬尾弘子・曾根眞理枝 学建書院

### 《参考文献》

### 《成績評価の方法》

筆記試験（80％） レポート（20％）

### 《授業時間外学習》

- ・予習、復習を行うこと。
- ・授業時に配布するプリントを持ち帰り記載し、次回授業に持参すること。

### 《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	小児の健康な生活と食生活の意義 ・子どもの食生活の実態 ・食育基本法について
第 2 週	小児の発育・発達 ・発育のようす ・精神・運動機能の発達、そしやく機能の発達、消化吸収機能の発達
第 3 週	栄養に関する基本的知識 ・炭水化物・脂質・たんぱく質の栄養
第 4 週	栄養に関する基本的知識 ・無機質・ビタミンの栄養
第 5 週	栄養に関する基本的知識 ・食物の消化 ・栄養素の吸収と代謝
第 6 週	栄養に関する基本的知識 ・食事摂取基準 ・消費エネルギーの計算
第 7 週	栄養に関する基本的知識 ・献立のたて方・調理 ・健康増進のための食生活（食事バランスガイド・食生活指針）
第 8 週	妊娠・授乳期の食生活 ・胎児の発育 ・妊娠期の栄養と食生活
第 9 週	乳児期の食生活 母乳栄養
第 10 週	乳児期の食生活 ・人工栄養・混合栄養 ・離乳食の進め方
第 11 週	幼児期の食生活 ・幼児期の発達の特徴と食事のとり方 ・幼児期栄養の問題点
第 12 週	学童期・思春期の食生活 ・学校給食 ・学童期・思春期の食育 ・日常の食生活の検討
第 13 週	小児期の疾病と食生活 ・各疾患の特徴と症状に応じた食事の与え方
第 14 週	障がいがある小児の食生活 ・障がいの原因となる疾患と食生活  児童福祉施設における食生活 ・児童福祉施設における給食の基本 ・保育所給食 と食育
第 15 週	まとめ

**《学科教育科目》**

科目名	教育原理				
担当者名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

人間にとってなぜ教育が必要なのか、また教育の意義や目的は何かということについて、漠然とした理解ではなく理論的に理解することができることを目的とする。教育の意義や目的について、現代のさまざまな領域の知見から洞察を深めることで、人間にとっての教育の必要性や役割が理解できるようにする。また、これまでの教育の歴史を知ること、現在の教育のあり方やこれからの教育の課題について考察することができるように努める。

**《授業の到達目標》**

- ・教育の意義・必要性・役割・目的について、理論的な観点から理解できるようにする。
- ・教育の歴史および理念について、体系的に把握できるようにする。
- ・学習の形態や教育の方法原理を知る。
- ・現代教育の問題と課題について洞察を深めることができるようにする。

**《テキスト》**

『教育学の基礎と展開』相澤伸幸著、ナカニシヤ出版  
他、適宜資料を配布します。

**《参考文献》**

適宜紹介します。

**《成績評価の方法》**

平常の出席や受講態度、提出物（50%）、学期末のまとめの課題（50%）で評価する。

**《授業時間外学習》**

- ・教科書の指定箇所を熟読することで予習・復習を進めるようにする。
- ・授業内で紹介された参考図書や資料も、できる限り調べるようにする。
- ・平常に出された課題に取り組み、期日に提出するようにする。

**《備考》**

授業中の私語や携帯電話の使用は、厳禁とする。  
意欲的な姿勢を期待します。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	教育の必要性和適時性、教育の必要性の根拠について
第 2 週	教育の意味・役割・目的について
第 3 週	西欧における教育の理念と実践の歴史について
第 4 週	古代から中世までの教育理念と実践の歴史
第 5 週	中世の教育理念と実践の歴史
第 6 週	近代および現代の教育理念と実践の歴史
第 7 週	日本における教育の理念と実践の歴史について
第 8 週	明治以前の教育観と教育施設
第 9 週	明治から大正にかけての教育観と教育実践の取り組み
第 10 週	現代の教育観と取り組みの事例
第 11 週	教育方法論の基本原則について
第 12 週	新教育における教育方法論と学習形態について
第 13 週	現代教育の諸問題について
第 14 週	現代教育の課題について
第 15 週	まとめ

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者名	笹田 哲男・三井 圭子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	2年・I期分

《授業のねらい及び概要》

幼稚園教育実習の見学観察実習に必要な知識や実践技能を身に付けるとともに、子どもの活動の姿のとらえ方、保育者の子どもへのかかわりの姿から、幼稚園教育を学ぶ。

《授業の到達目標》

見学観察の教育実習に、自分としての目標やねらいを明確にしながら、幼児教育の意義を学ぶ。子どもの活動する姿から、子どもの成長発達を理解し、保育者の子どもへのかかわり方や保育技術を学び、保育者としての資質を高める努力をする。事前指導においては、記録の取り方を学び、学びたい視点を明確にする。事後指導においては、実習で学んだことを振り返り保育者としての課題を持ち、参加指導実習への学びとし、知識、技能を積み上げていく。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』  
 『実習の手引き』  
 『実習日誌の書き方』（萌文書林）  
 プリント配布

《参考文献》

『保育の実技』 萌文書林、授業中に適宜紹介

《成績評価の方法》

授業中に課す提出物 ・発表内容（10%）授業中の態度（20%）実習園の評価（70%）  
 最終的な評価になる

《授業時間外学習》

授業中の課題、演習問題を次回に提出する場合は準備をしておくこと。

《備考》

実習を受けるための資格条件を理解し、遵守する。  
 欠席、遅刻、早退をしない。やむをえず欠席、遅刻をした場合、保育研究室に連絡する。後日担当者の指示に従ってください。  
 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁します。他に授業中の妨害となることは厳重に対処します。  
 教材研究をするので、ハサミ、のり、セロテープ、ホッチキス等常に携帯しておく。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	見学観察実習の事務手続き・オリエンテーションについて 実習カードの記入について 実習で学びたいことを明確にする
第 2 週	オリエンテーションの確認と報告 実習日誌の書き方について 実習の心得、実習園の環境の記入・一日の生活の流れ
第 3 週	実習日誌の書き方について 実習の観点を考える 見学観察の記録の取り方・子どもの活動の姿をどのようにとらえるか、姿、ことばからの心の読み取りについて・
第 4 週	見学観察実習の反省と課題 自己評価をする。 お礼状を書く
第 5 週	参加指導実習について 幼稚園教育の保育の進め方の振り返り
第 6 週	幼稚園教育課程・指導計画について（3歳児）
第 7 週	幼稚園教育課程・指導計画について（4歳児）
第 8 週	幼稚園教育課程・指導計画について（5歳児）
第 9 週	指導計画の作成について
第 10 週	指導計画の作成と実際 子どもの活動・環境構成のあり方
第 11 週	指導計画の作成と実際 保育者の援助
第 12 週	相互学習及び模擬保育
第 13 週	相互学習及び模擬保育
第 14 週	相互学習及び模擬保育
第 15 週	参加指導実習について心構え 部分保育、研究保育について

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者名	笹田 哲男・三井 圭子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

教育実習に必要な知識、実践技能を身につけ、参加指導実習に臨む。実習生として謙虚に幼稚園教育に参加し、自ら保育の計画を立て、部分保育や研究保育に臨み、保育の実践力をつける

《授業の到達目標》

事前指導で学んだことを、意欲的に保育に参加し、子どもとのかかわりから幼児理解を確かなものにし、保育者の姿から、保育者のあるべき姿を学び、自分の課題を明確にする。より良い実践的な、知識、技能を身につけていく。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』  
『実習の手引き』  
『実習日誌の書き方』  
プリント配布

《参考文献》

『保育の実技』『保育とカリキュラム』『年齢別クラス運営』  
授業中に適宜紹介します

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物・発表（10%）・授業中の態度(20%) 実習園の評価(70%) 最終的に評価します

《授業時間外学習》

指導計画案等授業中に課し他資料の提出の準備をしておくこと

《備考》

教育実習の資格条件を理解し、遵守する。欠席、遅刻、早退はしないようにする。やむをえず欠席、遅刻、早退をする場合は保育研究室に連絡をする。また担当者の指示を受ける。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁します。提出物の期限は守ること(期日を過ぎると受けとりません)

教材研究をするため、ハサミ、のり、セロテープ、ホッチキス等常に携帯しておきましょう。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保育実習
第 2 週	保育実習
第 3 週	保育実習
第 4 週	保育実習
第 5 週	保育実習
第 6 週	保育実習
第 7 週	保育実習
第 8 週	保育実習
第 9 週	保育実習
第 10 週	保育実習
第 11 週	幼稚園参加指導実習事前指導 部分保育の指導計画作成 ・実習生のかかわりについて
第 12 週	幼稚園参加指導実習事前指導 部分保育の指導計画作成 ・幼児の姿ととらえ方
第 13 週	幼稚園参加指導事前指導 部分指導の指導計画作成 ・教師の援助について
第 14 週	幼稚園参加指導事前指導 部分指導の指導計画作成・環境構成について 相互学習、模擬保育
第 15 週	相互学習 模擬保育 保育の進め方の課題について

《学科教育科目》

科目名	保育実習 I				
担当者名	笹田 哲男・杉山 貴要江				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	2年・通年

《授業のねらい及び概要》

事前学習では、実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にし、実習計画書を作成する。実習中には、実習指導担当者の指導のもとに、実習計画書に従って課題を達成する。事後学習では、実習体験を振り返り、実習報告書を作成するとともに新たな学習目標を明確にする。

《授業の到達目標》

「居住型児童福祉施設等の生活に参加し、利用者の理解を深めるとともに、施設の機能と保育士の職務について学ぶ。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』内山元夫他編（みらい）

《参考文献》

『保育福祉小六法 2008』（みらい）

《成績評価の方法》

実習施設の評価（60%）、事前学習（20%）、事後学習（実習報告書の提出）（20%）で評価する。

《授業時間外学習》

実習施設の種別ごとに課題を出します。それによって学習して授業には出席してください。

《備考》

全出席を原則とします。遅刻は記録します。やむを得ず欠席をする場合は、事前に保育研究室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保育実習Ⅱ反省会
第 2 週	教育実習事前指導
第 3 週	教育実習事前指導
第 4 週	保育士資格における保育実習Ⅰ（施設）の位置づけの説明 評価の基準説明，実習施設の決定，個人票記入（下書き），実習ノートの配布等
第 5 週	施設でのオリエンテーションの説明 施設への連絡方法及びオリエンテーションの意義と諸注意 オリエンテーション報告書の提出について，実習施設・班ごとの連絡網作成と班長の決定，個人票記入（清書）等
第 6 週	養護系／障害児者系の施設に分かれての学習 - 1 実習施設についての学習，実習計画書作成のための学習
第 7 週	養護系／障害児者系の施設に分かれての学習 - 2 実習施設についての学習，実習計画書作成のための学習，実習記録の意義・方法の理解
第 8 週	養護系／障害児者系の施設に分かれての学習 - 3 実習計画書作成（1） 巡回指導教員の掲示と挨拶，
第 9 週	養護系／障害児者系の施設に分かれての学習 - 4 実習計画書作成（2）完成と提出方法（施設・保育研究室・学生控え） 巡回教員への挨拶の確認
第 10 週	実習の心構えと報告書について 細菌検査容器配布，健康診断書の提出，実習事前，実習中の感染性の病気について（インフルエンザ予防注射等）， 後輩のためのアンケート用紙配布，実習施設持参書類の配布 報告書の書き方と提出方法，礼状について
第 11 週	本実習
第 12 週	本実習
第 13 週	実習後反省会 礼状についての確認
第 14 週	教育実習事前指導
第 15 週	教育実習事前指導

**《学科教育科目》**

科目名	児童心理学				
担当者名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

保育士あるいは幼稚園教諭が接する年齢段階にある子どもたちが、環境との関わりの中で、どのように成長していくのかを学ぶ。子どもの成長の過程を、人間関係や言葉、認知など様々な角度から描き出していきます。

**《授業の到達目標》**

- 子どもの発達について様々な視点から捉えられるようになること。
- 子どもの発達にとって、人を含めた環境との関わりがいかに大切かを説明できるようになること。

**《テキスト》**

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

**《参考文献》**

- 『はじめて学ぶ乳幼児の心理 - こころの育ちと発達の支援』 桜井茂男（編） 有斐閣 2006  
『グラフィック乳幼児心理学』 若井邦夫・高橋道子・高橋義信・堀内ゆかり（著） サイエンス社 2006  
『乳幼児発達心理学 - 子どもがわかる好きになる』 繁多進（編著） 福村出版 1999

**《成績評価の方法》**

授業目標の到達度評価（テスト）100%。

**《授業時間外学習》**

参考文献として取り上げた文献などを読むことで、授業中に取り上げたテーマについて理解を深めること。

**《備考》**

保育士や幼稚園の先生をこころざす学生のみなさんにとって、役に立つ授業を目指します。  
授業にまじめに取り組める学生の受講を希望します。  
ただ授業に出席するだけ、プリントをもらうだけでは、単位取得は困難です。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	イントロダクション 子ども心理学を学ぶ意義
第 2 週	子ども時代の発達の特徴
第 3 週	親と子を結ぶ絆：愛着の発達
第 4 週	愛着の発達とコミュニケーション
第 5 週	ことばとコミュニケーションの発達
第 6 週	自分を取り巻く世界を知るはたらき：認知発達その 1
第 7 週	自分を取り巻く世界を知るはたらき：認知発達その 2
第 8 週	子どもの知的発達：ピアジェの理論をめぐって
第 9 週	子どもの発達と遊び
第 10 週	発達の「つまずき」を正しく理解する その 1
第 11 週	発達の「つまずき」を正しく理解する その 2
第 12 週	他者のこころの理解と思いやりの発達
第 13 週	自己と情動の発達
第 14 週	子ども時代の発達をふりかえる
第 15 週	授業目標の到達度評価（テスト）

**《学科教育科目》**

科目名	臨床心理学				
担当者名	古賀 愛人				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

臨床心理学とは、人間の心の問題や葛藤に対して、心理学的な知識や技法を用いて問題解決のための援助をする学問です。そのためには問題に対するアセスメントと介入をすることになるが、心理アセスメントとその結果としての様々な精神障害、介入法としての心理療法を学ぶことにより、心の健康とは何かを理解できるようになることをめざします。

**《授業の到達目標》**

- 臨床心理学とは何かを説明できる。
- 「心」の問題、精神障害について説明できる。
- 「心」の問題をどのようにアセスメントするかを説明できる。
- 「心」の問題を解決する方法を説明できる。

**《テキスト》**

(図解雑学) 臨床心理学 松原達哉編 (株) ナツメ社 2002

**《参考文献》**

(よくわかる) 臨床心理学—改定新版— 下山晴彦 ミネルヴァ書房 2009  
DSM—IV—TR (新訂版) 高橋三郎他訳 医学書院

**《成績評価の方法》**

授業の質疑応答討論への参加度 20%と定期試験 80%で評価します。

**《授業時間外学習》**

シラバス (授業計画) により、教科書を予習しておく必要があります。

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	臨床心理学とは何か
第 2 週	臨床心理学と教育・医学・福祉等他の領域との関係
第 3 週	臨床心理学の概念色々 —人間の「心」とは何か
第 4 週	臨床心理学も概念色々 —介入法における問題点
第 5 週	心に表われる様々な症状① —統合失調症
第 6 週	心に表われる様々な症状② —気分障害
第 7 週	心に表われる様々な症状③ —不安障害
第 8 週	心に表われる様々な症状④ —解離性障害と身体表現性障害
第 9 週	心に表われる様々な症状⑤ —発達障害その他
第 10 週	心の問題を解決する心理療法① —精神分析療法
第 11 週	心の問題を解決する心理療法② —来談者中心療法
第 12 週	心の問題を解決する心理療法③ —認知行動療法
第 13 週	心理アセスメント①
第 14 週	心理アセスメント②
第 15 週	まとめ講義

## 《学科教育科目》

科目名	保育内容・健康				
担当者名	鈴木 富美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

### 《授業のねらい及び概要》

乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心とからだの基礎を培う大切な時期であることを基本学習し領域「健康」の視点から乳幼児期における心身の健康に関する内容を理解する。そして命を守り、育てることを十分に認識した援助の方法・技術を習得する。また、幼児自らが健康で安全な生活をつくり出す力を養っていくための保育援助、技術を様々な事象の学習を通し習得する。

### 《授業の到達目標》

乳幼児期における心身の健康（命を守り、育て、自ら健康をつくり出す力の援助）の内容を理解し、保育者として、基本的な知識や技術を身につけ、指導のあり方を学習する。

### 《テキスト》

「保育内容・健康」近藤充夫編著（建帛社）  
「保育所保育指針」  
「幼稚園教育要領」

### 《参考文献》

事例で学ぶ保育内容 領域「健康」  
必要に応じ印刷物を配布する。

### 《成績評価の方法》

定期試験（70%）、レポート及び提出物（20%）、授業態度（10%）で評価する。

### 《授業時間外学習》

教科書の指定範囲を読んでおくこと。  
授業終了時に配布したプリントは必ず読み、課題があればレポート提出をすること。  
次回の授業範囲を予習し、保育用語の意味を調べてノートに整理しておくこと。  
授業終了後には学習した範囲の復習をはかること。

### 《備考》

授業中の携帯電話の使用、飲食等は禁止する。  
授業中の私語は慎む。  
正当な理由のない欠席、遅刻は厳重にチェックする。  
小型遊具製作においては、必要な材料を準備する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション ・講義の概要 ・履修上の諸注意 ・授業のすすめ方 ・「健康」の定義
第 2 週	領域「健康」の「ねらい」及び「内容」 ・テキスト「保育内容 健康」 ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領
第 3 週	子どものからだと健康 ①体格と生理機能の発達
第 4 週	子どものからだと健康 ②運動能力の発達
第 5 週	子どものからだと健康 ③基本的な生活習慣の形成 食事・睡眠・排泄・着脱
第 6 週	子どもの心と健康 ①情緒の発達と運動 ②社会性の発達と運動
第 7 週	子どもの心と健康 ③パーソナリティの発達と運動 ④知的能力の発達と運動
第 8 週	子どもの心と健康 ⑤子どもの健康をめぐる問題
第 9 週	子どもの心と健康 ⑥食育について
第 10 週	乳幼児の遊びの発達と健康 ①いろいろな遊具の特徴と遊び方 (素材、大型遊具、小型遊具)
第 11 週	乳幼児の遊びの発達と健康 ②小型遊具で遊ぶ ・小型遊具を作る
第 12 週	乳幼児の遊びの発達と健康 ③小型遊具で遊ぶ (②の継続) ・小型遊具を作る ・小型遊具で遊びを考え工夫する
第 13 週	乳幼児の遊びの発達と健康 ④小集団活動の実践
第 14 週	安全指導 ①安全教育のねらい ②乳幼児の安全管理 ③乳幼児の安全指導
第 15 週	まとめと理解度の確認

## 《学科教育科目》

科目名	保育内容・人間関係				
担当者名	三井 圭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

### 《授業のねらい及び概要》

幼児期の人間関係は、年齢及び成長発達によって、培われる。良い人間関係は、人格形成の基礎となることを学び、様々な幼児の活動から分析し、幼児の心を読み取るちからをつける。そして保育者として豊かな心情や、知識を身につけて、保育に生かす方法、技能、実践力を習得する。

### 《授業の到達目標》

乳幼児の発達の特徴を理解し、自律心、自立心、信頼感や道徳心の芽生えが人とかかわりによってどのように育っていくかを学ぶ。保育所指針、幼稚園教育要領の解説の「ねらい」「内容」「内容の取扱い」などを理解するために、具体的な事例、演習問題から学ぶ。子どもたちの活動の姿を理解し、適切なことばをかけた、丁寧な対応ができるように、あるいは子どもの考えや気持ちをくみ取ることができる。また人として、保育者としての様々なことに、積極的に関心を持ち、広い心と柔軟性をもって臨み、乳幼児のより良い成長を支援できる保育者としての資質を身に付ける。

### 《テキスト》

『保育所保育指針解説書』

『幼稚園教育要領解説書』

プリント配布

### 《参考文献》

『保育内容 人間関係』 森上史朗・吉村真理子・後藤節美編 ミネルヴァ書房

『人間関係（実技・実践編）監修高橋省巳 編著 川崎チヨ子・川原佐公 三晃書房

『幼稚園における道徳性の芽生えを培う事例集』 文部科学省

### 《成績評価の方法》

事例、演習問題に対する解答（10%）・授業態度（10%）・筆記試験（80%）で評価する。

筆記試験についてはテキスト等の「持ち込み不可」とする

授業欠席回数数の3分の1以上欠席した者には単位をあたえない。

### 《授業時間外学習》

前回の事例、演習問題を次回に発表やレポート提出をするので、必ず準備しておくこと。

### 《備考》

授業は必ず出席する心構えを持つ。正当な理由のない欠席、遅刻、早退は厳重に注意します。授業中の飲食、私語、携帯電話の使用、授業の妨害的な行為は厳禁です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の進め方を知る 領域「人間関係」の本質を理解する。「ねらい」「内容」について 乳児期の心の育ちを学ぶ
第 2 週	領域「人間関係」の本質の理解 内容の取扱いについて意味を考え、学ぶ 乳児と母親、保育者とのかかわりから乳児期の心の育ちを学ぶ
第 3 週	乳幼児期の発達と人間関係を考え、その問題について 発達段階により、人とのかかわりを考えていく。 乳児期の後期の人とのかかわりの中での育ちを学ぶ
第 4 週	乳幼児期の発達と人間関係を考え、その問題について 保育の基本と人とのかかわりを学ぶ 幼児期の保育の事例から、個と集団についての学ぶ
第 5 週	幼児期の生活の中での様々な人とのかかわりを通して幼児期の心の育ちについて 様々な環境の中での人間関係の育ちを考え、健全な人としての心の育ちの重要性を考え学ぶ。3 歳児の成長と発達を 人間関係の視点から学ぶ。
第 6 週	幼児期の集団生活での人とのかかわりの育ちについて 自立へ向けての様々な経験、体験からの子どもの成長発達を考える 3 歳児の保育の事例から学ぶ
第 7 週	幼児期の集団生活での人とかかわりの育ちについて 自立へ向けての様々な経験、体験からの子どもの成長発達を考える 集団としての育ちを学ぶ 3 歳児の保育の事例から学ぶ
第 8 週	生活と遊びの中で育つ人とのかかわりについて グループでの育ちについて 4 歳児の成長と発達を人間関係の視点から学ぶ
第 9 週	生活と遊びの中で育つ人とのかかわりについて 幼児にとっての遊びの意味について考える 4 歳児の保育の事例から学ぶ
第 10 週	生活と遊びの中で育つ人とのかかわりについて エピソードから育つものについて考える 4 歳児の保育の事例から学ぶ
第 11 週	人とのかかわりを育てる保育の実践について クラス活動、個々を生かす保育について考える 5 歳児の成長と発達を人間関係の視点から学ぶ
第 12 週	人とのかかわりを育てる視点について 目に見えるもの、目に見えないものについて、道徳心の芽生えと信頼関係を考える 5 歳児の保育の事例から学ぶ
第 13 週	人とのかかわりの育ちとことばについて コミュニケーションについて考える 5 歳児の保育の事例から学ぶ
第 14 週	人とのかかわりを育てる保育者の役割について 人的環境としての保育者のあり方を考える めざす理想の保育者像、保育観を考える
第 15 週	まとめ・理解度の確認 ・学習の振り返り（筆記試験）

## 《学科教育科目》

科目名	保育内容・環境				
担当者名	鈴木 富美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

### 《授業のねらい及び概要》

テキストや文献・資料などにより領域「環境」の「ねらい」及び「内容」について学習し、乳幼児の育ちと環境との密接な関係について理解を深めていく。

事例や演習により、発達に応じた環境構成に意欲的に取り組み、実践力を身につける。

### 《授業の到達目標》

乳幼児の発達は環境との相互作用によって促されていくことを認識し、領域「環境」の「ねらい」及び「内容」について十分理解、把握をし、保育者として子どもの成長発達に望ましい環境づくりをしていくための知識・技術の習得をする。

### 《テキスト》

「保育内容 環境」中沢和子 小川博久編（建帛社）

「保育所保育指針解説書」

「幼稚園教育要領の解説」

### 《参考文献》

「環境」チャイルド社

「保育内容 環境」ミネルヴァ書房

事例で学ぶ保育内容 領域「環境」ひかりのくに

「アイデアたっぷり年中行事」ひかりのくに

### 《成績評価の方法》

定期試験（70%） レポート及び提出物（20%） 授業態度（10%）

### 《授業時間外学習》

教科書の指定範囲を読んでおくこと。

授業終了時に配布したプリントは必ず読み、課題があればレポート提出をすること。

次回の授業範囲を予習し、保育用語の意味を調べてノートに整理しておくこと。

授業終了後には学習した範囲の復習をはかること。

### 《備考》

授業中の携帯電話の使用、飲食等は禁止する。

授業中の私語を慎む。

正当な理由のない欠席、遅刻は厳重にチェックする。

環境構成の実技において必要な材料を準備する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション ・講義の概要 ・履修上の諸注意 ・授業のすすめ方 ・乳幼児にとって「環境」とは（領域「環境」の理解）
第 2 週	保育内容「環境」について ・幼児教育の目標と領域の考え方「ねらい」及び「内容」について
第 3 週	子どもの育ちと環境について ①乳児期の発達過程と環境
第 4 週	子どもの発達と環境について ②幼児期の発達過程と環境
第 5 週	環境とのかかわり（相互作用）について ①人的環境・物的環境・社会的環境 ②保育者の役割
第 6 週	保育生活の中の環境構成 ・基本的生活習慣場面の環境 ・乳児の場合 ・幼児の場合
第 7 週	保育生活の中の環境について ②遊びの環境 ・乳児の場合 ・幼児場合
第 8 週	環境と幼児理解について 好奇心、感性、感覚を育てる ・乳児の場合 ・幼児の場合
第 9 週	環境と幼児理解について ②意欲・探究心を育てる
第 10 週	環境と幼児理解について ③数量・文字・標識・図形への関心を育てる
第 11 週	子どもの遊びと環境 ①四季折々の自然物を生かした環境構成
第 12 週	子どもの遊びと環境 ②身近な素材を生かした環境構成
第 13 週	子どもの遊びと環境 ③社会的事象や行事・伝承文化を取り入れた環境構成
第 14 週	現代社会に見る環境の課題 ・社会環境の現状 ・家族や地域社会 ・保育者の取り組み
第 15 週	まとめと理解度の確認

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現 I				
担当者名	井上 眞美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

身体と心の感性を育てる。

《授業の到達目標》

自分の身体を知ること。「動きの世界」「音の世界」から何かを感じて、身体の諸感覚を目覚めさせる。音楽と基本ステップの実技研修から、幼児期の年齢別にふさわしい指導方法を主体的に考えていく。

《テキスト》

『表現』 幼児音楽①② 小林美実監修（保育出版社）

《参考文献》

『手あそび 指あそび』 吉本澄子著（玉川大学出版部）  
『ドラマによる表現教育』 ブライアン ウェイ著（玉川出版部）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。授業回数の 1/3 を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと。
- ・ステップに関する専門用語の意味等を理解し、ノートに整理しておくこと。
- ・毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

- ・自分がイメージしたことが身体で表現できるように日常生活で五感を研ぎ澄ましておく。
- ・服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。
- ・授業中の携帯電話は使用厳禁とする。
- ・リズムシューズを使用する。集団あそびは屋外のシューズを使用する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	表現についての概要の説明 手あそび
第 2 週	身体の諸感覚を感じるあそび（基本運動と動きのリズム） 各国の幼児のフォークダンスを体得する
第 3 週	基本ステップを中心に、クリエイティブムーブメント。世界のフォークダンス
第 4 週	基本ステップを中心に、クリエイティブムーブメント。世界のフォークダンス
第 5 週	基本ステップを中心に、クリエイティブムーブメント。世界のフォークダンス
第 6 週	模倣あそび、幼児体操
第 7 週	動きの質のテーマ（緊張と解緊）
第 8 週	動きの質のテーマ（緊張と解緊）
第 9 週	ことばとリズムあそび・わらべうたあそび
第 10 週	身近な道具のリズムあそび
第 11 週	身近な道具のリズムあそび
第 12 週	野外における集団あそび（わらべうたあそび・ゲーム）
第 13 週	関係のテーマ（仲間と共同して作品を創る）
第 14 週	関係のテーマ（仲間と共同して作品を創る）
第 15 週	作品発表会

## 《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現Ⅱ				
担当者名	小原 義子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

### 《授業のねらい及び概要》

人は生涯にわたって、人やものどのかかわっていくかが、豊かな生活を作っていく大きな課題である。人やものに興味や関心を持ち、豊かな感性や表現する力を養う探究心や、創造性を育む乳幼児期の表現にかかわる生活について学ぶ。内容については、具体的な事例を通して、乳幼児期の特徴を理解し、発達の課題に即したよりよい援助のあり方を探り、保育者としての実践力を身に付けていく。保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「表現」に示されている「ねらい」及び「内容」などの具体的理解をする。

### 《授業の到達目標》

豊かな感性や表現する力を養うための保育の内容について知る。

### 《テキスト》

『保育内容造形表現の探求』 黒川健一 編著 (相川書房)  
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 (フレーベル館)

### 《参考文献》

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』  
『表現』 黒川健一 編著 (ひかりのくに(株))

### 《成績評価の方法》

授業態度(40%)、筆記試験(60%)で評価する

### 《授業時間外学習》

- ・自分自身の表現や感性について見直しておくこと
- ・実習現場において、幼児の表現について読み取り学んでおくこと

### 《備考》

演習に関する課題や資料については、その都度提示する。

### 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業のねらいと概要・到達目標・評価についての理解
第 2 週	領域「表現」について Ⅰ (領域「表現」のねらいについて)
第 3 週	領域「表現」について Ⅱ (領域「表現」の内容について)
第 4 週	領域「表現」について Ⅲ (領域「表現」の内容の取り扱いについて)
第 5 週	誕生から始まる表現について (育ちによる変容)
第 6 週	原体験と表現意欲
第 7 週	造形表現の発達の理解
第 8 週	自然素材による表現 (水、砂、土、泥、風など)
第 9 週	園生活と造形活動 (生活場面と造形)
第 10 週	園生活と造形活動 (遊びのなかの造形)
第 11 週	造形表現の実際 (共感的に受け止めるために)
第 12 週	造形表現の実際 (段ボールを使う遊び)
第 13 週	子どもの絵から (子どもを知る)
第 14 週	保育者の役割とこれからの課題
第 15 週	まとめ・理解度の確認 (試験)

**《学科教育科目》**

科目名	障害児保育				
担当者名	柳田 洋				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

障害についての科学的な知識や、発達のすじ道を学ぶことによって、障害がある子どもたちの理解を深めるとともに、発達を保障していく保育場面での援助のあり方について考える。また、発達を支援していくための、健常児との関わり、家庭・社会との連携の大切さについても保育者という実践者の立場から考えていく。

**《授業の到達目標》**

障害児の発達を保障するために、障害を科学的に理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について考えることができる。

**《テキスト》**

『新版テキスト障害児保育』白石正久・近藤直子・中村尚子編 全障研出版部

**《参考文献》**

『新版-この子らを世の光に』糸賀一雄著 NHK 出版  
『発達の扉 下 障害児の保育・教育・子育て』白石正久著 かもがわ出版  
『多動症の子どもたち』太田昌孝著 大月書店 その他、授業中に適宜紹介する。

**《成績評価の方法》**

定期試験（テキスト・ノート等持ち込み可）（50%）。適宜、レポート等の提出（50%）を課す。  
出席状況・授業態度を勘案する。

**《授業時間外学習》**

教科書の指定箇所をよんでおくこと。

**《備考》**

毎時間、出席表（感想・質問等を記入）の提出をもって出席を確認する。  
提出物の期限は厳守し、返却されたものについては配布資料等とともにファイルしておくこと。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	障害児保育のあゆみと現状・課題
第 2 週	障害と発達のすじ道
第 3 週	さまざまな障害の理解①知的発達の障害
第 4 週	さまざまな障害の理解②情緒・社会性の障害
第 5 週	さまざまな障害の理解③身体・運動面の障害
第 6 週	さまざまな障害の理解④視覚・聴覚など感覚の障害
第 7 週	さまざまな障害の理解⑤医療的ケアを必要とする障害
第 8 週	障害児保育について考える①知的発達の障害
第 9 週	障害児保育について考える②情緒・社会性の障害
第 10 週	障害児保育について考える③身体・運動面の障害
第 11 週	障害児保育について考える④視覚・聴覚など感覚の障害
第 12 週	障害児保育について考える⑤医療的ケアを必要とする障害
第 13 週	発達を支援する保育者として
第 14 週	就学に向けて
第 15 週	まとめ

# 平成 20 年度 (2008 年度) 入学者



# カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成20年度（2008年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当 (数字は週当り授業時間)						備考		
			必修	選択			1年		2年		3年				
							I	II	I	II	I	II			
学科教育科目	保育方法論	講義		2	◆			2							
	養護内容	演習		1		●		2							
	乳児保育Ⅰ	演習		2		●	2								☆
	乳児保育Ⅱ	演習		2		○						2			☆
	障害児保育	演習		1		●			2						
	教育相談	講義		2	◆							2			
	総合演習	演習		2	◆	●							2		☆

(注意)

- ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
- ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。
- 印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
- 印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育C				
担当者名	大串 和久・他				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育者の現場で求められる望ましい保育者となるためには、活動の結果や技術面ばかりに目を向けるのではなく、子どもが表現しようとする意欲を温かく受け止め、表現する喜びや感動する心を共有し育んでいくことがたいせつです。器楽A、器楽B、音楽教育A、音楽教育Bで培ってきた基礎知識や技術能力を再確認し、さらに磨きをかけて応用力を養い、子どもの歌の弾き歌いをはじめとした様々な楽曲を通じて幅広い音楽表現ができるよう個々の到達度に合わせた個人レッスンと集団授業とを適宜おりまぜながら進めていきます。

《授業の到達目標》

- コードネームを理解し、記されたコードネームを見ただけで容易に伴奏付けができる。
- 容易に伴奏付けができることによって歌うことにも集中し、より多くの楽曲をのびのびと弾き歌いできる。
- 合奏や即興演奏も自らが楽しんで積極的に参加することができる。

《テキスト》

『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）

『すいかとかぼちゃのロックンロール』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）

※器楽A、器楽B、音楽教育A、音楽教育Bで使用したテキストは指示があったらすぐ使えるよう準備してください。

《参考文献》

資料等は、必要に応じて配布する。

《成績評価の方法》

1. 欠席が 1/3 を超えたものは発表演奏資格なし。
2. 真面目な授業態度。
3. 受講進度表の不備なく整理された記入。
4. 授業中指示する課題提出及び小テスト。
5. 研究発表会(グランドピアノによる発表演奏)。
6. 実技試験 (50%=研究発表会) と授業点 (50%=上記1～5 及び備考1～4) の総合評価。

《授業時間外学習》

・予習

毎回、次の授業に向けての課題を指示しますから必要に応じて各自で練習してください。

・復習

毎回授業で扱ってきた曲を授業中に復習することにより着実にレパートリーを増やしていきます。授業中だけで復習の時間が不足と感じた時は個々で必要に応じて練習室や自宅等で練習してください。

《備考》

1. 遅刻・早退は 20 分まで出席扱い（当該日の授業点を減点）とします。やむを得ず 20 分を超えそうな時は出席扱いとはなりません。授業内容が毎回つながりをもちますので、そのような時でも必ず出席してください。
2. 身だしなみとエチケット（つめ・髪・服装・靴等の清潔感）を心がけてください。
3. 毎回受講進度表に必要事項を記入し指導者から必ずサインをもらってください。
4. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、授業終了時には次の使用者のために清潔を心がけてください。特に室内は飲食厳禁はもちろんこと、携帯電話の使用も厳禁（発覚の際は当該日の授業点を減点）です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	『音楽教育 C』における授業内容の説明。指導者の紹介と個々の進度調査及び個人指導。次回の指定曲を決定。
第 2 週	子どもの歌弾きうたいと歌うことについて(1) 個々の進度に応じた個人指導(1)
第 3 週	子どもの歌弾きうたいと歌うことについて(2) 個々の進度に応じた個人指導(2)
第 4 週	子どもの歌弾きうたいと歌うことについて(3) 個々の進度に応じた個人指導(3)
第 5 週	子どもの歌弾きうたいと合奏について合奏について(1) 個々の進度に応じた個人指導(4)
第 6 週	子どもの歌弾きうたいと合奏について合奏について(2) 個々の進度に応じた個人指導(5)
第 7 週	子どもの歌弾きうたいと合奏について合奏について(3) 個々の進度に応じた個人指導(6)
第 8 週	子どもの歌弾きうたいとリズム等の即興演奏について(1) 個々の進度に応じた個人指導(7)
第 9 週	子どもの歌弾きうたいとリズム等の即興演奏について(2) 個々の進度に応じた個人指導(8)
第 10 週	子どもの歌弾きうたいとリズム等の即興演奏について(3) 個々の進度に応じた個人指導(9)
第 11 週	子どもの歌弾きうたいと総合演習(1) 個々の進度に応じた個人指導(10)
第 12 週	子どもの歌弾きうたいと総合演習(2) 個々の進度に応じた個人指導(11)
第 13 週	研究発表時の課題曲を学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導にて点検
第 14 週	研究発表会
第 15 週	I 期の総復習

《学科教育科目》

科目名	音楽教育D				
担当者名	大串 和久・他				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育者の現場で求められる望ましい保育者となるためには、活動の結果や技術面ばかりに目を向けるのではなく、子どもが表現しようとする意欲を温かく受け止め、表現する喜びや感動する心を共有し育んでいくことがたいせつです。器楽A、器楽B、音楽教育A、音楽教育Bで培ってきた基礎知識や技術能力を再確認し、さらに磨きをかけて応用力を養い、子どもの歌の弾き歌いをはじめとした様々な楽曲を通じて幅広い音楽表現ができるよう個々の到達度に合わせた個人レッスンと集団授業とを適宜おりまぜながら進めていきます。

《授業の到達目標》

- コードネームを理解し、記されたコードネームを見ただけで容易に伴奏付けができる。
- 容易に伴奏付けができることによって歌うことにも集中し、より多くの楽曲をのびのびと弾き歌いできる。
- 合奏や即興演奏も自らが楽しんで積極的に参加することができる。

《テキスト》

『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）

『すいかとかぼちゃのロックンロール』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）

※器楽A、器楽B、音楽教育A、音楽教育Bで使用したテキストは指示があったらすぐ使えるよう準備してください。

《参考文献》

資料等は、必要に応じて配布する。

《成績評価の方法》

1. 欠席が 1/3 を超えたものは発表演奏資格なし。
2. 真面目な授業態度。
3. 受講進度表の不備なく整理された記入。
4. 授業中指示する課題提出及び小テスト。
5. 研究発表会(グランドピアノによる発表演奏)。
6. 実技試験 (50%=研究発表会) と授業点 (50%=上記1～5 及び備考1～4) の総合評価。

《授業時間外学習》

・予習

毎回、次の授業に向けての課題を指示しますから必要に応じて各自で練習してください。

・復習

毎回授業で扱ってきた曲を授業中に復習することにより着実にレパートリーを増やしていきます。授業中だけで復習の時間が不足と感じた時は個々で必要に応じて練習室や自宅等で練習してください。

《備考》

1. 遅刻・早退は 20 分まで出席扱い（当該日の授業点を減点）とします。やむを得ず 20 分を超えそうな時は出席扱いとはなりません。が授業内容が毎回つながりをもちますので、そのような時でも必ず出席してください。
2. 身だしなみとエチケット（つめ・髪・服装・靴等の清潔感）を心がけてください。
3. 毎回受講進度表に必要事項を記入し指導者から必ずサインをもらってください。
4. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、授業終了時には次の使用者のために清潔を心がけてください。特に室内は飲食厳禁はもちろんこと、携帯電話の使用も厳禁（発覚の際は当該日の授業点を減点）です。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	『音楽教育D』における授業内容の説明。指導者の紹介と個々の進度調査及び個人指導。次回の指定曲を決定。	
第 2 週	子どもの歌弾きうたいと歌うことについて(4)	個々の進度に応じた個人指導(12)
第 3 週	子どもの歌弾きうたいと歌うことについて(5)	個々の進度に応じた個人指導(13)
第 4 週	子どもの歌弾きうたいと歌うことについて(6)	個々の進度に応じた個人指導(14)
第 5 週	子どもの歌弾きうたいと合奏について合奏について(4)	個々の進度に応じた個人指導(15)
第 6 週	子どもの歌弾きうたいと合奏について(5)	個々の進度に応じた個人指導(16)
第 7 週	子どもの歌弾きうたいと合奏について(6)	個々の進度に応じた個人指導(17)
第 8 週	子どもの歌弾きうたいとリズム等の即興演奏について(4)	個々の進度に応じた個人指導(18)
第 9 週	子どもの歌弾きうたいとリズム等の即興演奏について(5)	個々の進度に応じた個人指導(19)
第 10 週	子どもの歌弾きうたいとリズム等の即興演奏について(6)	個々の進度に応じた個人指導(20)
第 11 週	子どもの歌弾きうたいと総合演習(3)	個々の進度に応じた個人指導(21)
第 12 週	子どもの歌弾きうたいと総合演習(4)	個々の進度に応じた個人指導(22)
第 13 週	研究発表時の課題曲を学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導にて点検	
第 14 週	研究発表会	
第 15 週	Ⅱ期の総復習	

《学科教育科目》

科目名	小児保健実習				
担当者名	宮崎 千尋				
授業方法	実習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育士は、子どもの発育・発達状態、健康状態を正しく把握し、保育中の子どもの健康を守りつつ保育する責任がある。「小児保健」で学んだ「小児を心身の病気から守り、健全に発育させる」という理論をふまえ、保育所・乳児院などの児童福祉施設、あるいは幼稚園その他保育の場において、これを実践できる応用能力と技術を習得することを目指す。

《授業の到達目標》

1. 小児の生理的な特徴を理解し、その観察方法や測定技術が習得できる。
2. 日課に必要な養護技術が習得できる。
3. 事故防止と安全教育の行い方を理解し、説明出来る。
4. 乳幼児看護および救命処置と応急手当技術が習得出来る。

《テキスト》

「小児保健実習」 佐藤益子 編著 みなみ書房

《参考文献》

「小児看護実習ガイド」 筒井真優美 監修 照林社  
 「小児保健の基礎知識」 日本保育園保健協議会編集 日本小児医事出版社

《成績評価の方法》

定期試験 70% (テキスト及び配布資料の持ち込みは可とする)  
 授業内実習 30% (実習への参加度および実習試験によって評価する)  
 ※授業実施回数の1/3以上を欠席した者は成績評価の対象とならず単位は与えない。

《授業時間外学習》

- ・予習、復習の方法

実習には、前回の授業内容を復習し、実習の概要・必要物品・手順について理解を深め、臨んで下さい。

《備考》

- ・授業内実習が主になるので出席して経験することに重点をおきます。
- ・授業には実習、実技にふさわしい服装で臨み、指示されたことは守り、事故防止に努めて下さい。
- ・実習の準備、終了後の後片づけは協力してきっちりと行うように注意して下さい。
- ・授業時間の1/3を越えた遅刻は、欠席とみなします。
- ・他の学生への迷惑になるような私語等による授業妨害は退室してもらいます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	小児保健実習の目的・目標・内容、援助技術の基本
第 2 週	小児の健康状態の観察と記録
第 3 週	小児の身体発育と身体測定及び評価 (体重・胸囲・座高・頭囲・下肢長・視力・聴力等) 《実習》
第 4 週	小児の生理機能の測定と評価 (体温・脈拍・呼吸の測定) 小児の精神・運動機能の発達 《実習》
第 5 週	乳幼児の養護 (抱き方・背負い方・睡眠・排泄・食事・清潔の援助・外気浴・あやし方等) 《VTR 視聴・演習》
第 6 週	乳幼児の養護 (抱き方・背負い方・排泄・清潔の援助・食事・外気浴) 《実習》
第 7 週	乳幼児の養護 (身体の清潔: 沐浴) 《実習》
第 8 週	小児の看護 (1) よく起こる症状に対する看護
第 9 週	小児の看護 (2) よく起こる病気に対する看護
第 10 週	乳幼児の事故の現状と応急処置 小児の救急処置 《VTR 視聴》
第 11 週	小児の救急処置 (起きやすい事故の応急処置、心肺蘇生法) 《VTR 視聴・演習》
第 12 週	小児の救急処置 (1) 起きやすい事故の応急処置 《実習》
第 13 週	小児の救急処置 (2) 心肺蘇生法 《実習》
第 14 週	感染予防対策 ・ 危機管理
第 15 週	学習のまとめ

**《学科教育科目》**

科目名	精神保健				
担当者名	古賀 愛人				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

保育に携わるうえで、胎生期から思春期に至る発達と精神保健に関する基本的知識を学び、こころの健康保持増進とこころの不健康の予防に役立つようになることをめざします。

**《授業の到達目標》**

- こころの健康・不健康とは何かを説明できる。
- 健全な発達と発達上の問題点を説明できる。
- 子どもの発達障害と問題行動を理解し、その対応ができるようになる。

**《テキスト》**

改訂3版・保育士養成講座 第4巻  
精神保健 改訂・保育士養成講座編纂委員会 社会福祉法人社会福祉協議会 2005

**《参考文献》**

介護福祉士養成講座⑩  
精神保健 福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版

**《成績評価の方法》**

授業中の態度、討論への参加度 20%と定期試験 80%による総合評価。

**《授業時間外学習》**

シラバス（授業計画）により、テキストを予習しておくことが必要である。

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	保育における精神保健
第 2 週	精神保健 ―こころの発達と健康
第 3 週	胎児期のこころの発達と精神保健活動
第 4 週	乳児期の発達と精神保健活動
第 5 週	幼児期の発達と精神保健活動
第 6 週	学童期・思春期の発達と精神保健活動
第 7 週	乳幼児精神医学と発達障害
第 8 週	ことばの障害
第 9 週	多動性障害・強迫性障害
第 10 週	習癖障害
第 11 週	子どものうつ病・睡眠障害
第 12 週	登園拒否・児童虐待
第 13 週	保育所・地域における精神保健活動
第 14 週	障害児保育
第 15 週	まとめ講義

**《学科教育科目》**

科目名	家族援助論				
担当者名	若林 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

保育士資格の法定化（2001年）にともない、2002年から保育士養成課程も改正されることになり「家族援助論」が創設されることになった。保育所の社会的役割について、今日、子育てにおける家庭と社会のパートナーシップが重視されている。保育所はじめ児童福祉施設において地域子育て支援の機能は、保育士の職務の内容について拡大と転換を求められている。近年の著しい社会的変化が家族に及ぼしている動向や関連性を理解し、ソーシャルワークを担うこととなった家族援助のあり方を学ぶことを目的とする。

**《授業の到達目標》**

家族援助の必要性とその背景を理解し、あり方や援助の実際について説明できる。

**《テキスト》**

『家族援助論』（全国社会福祉協議会）

**《参考文献》**

『子育て支援の現在』垣内国光・桜谷真理子編著（ミネルヴァ書房）  
『子どもの発達と子育て・子育て支援』丸山美和子（かもがわ出版）  
『家族援助論』松村和子、澤江幸則、神谷哲司（建帛社）  
『保育福祉小六法』『保育所保育指針』

**《成績評価の方法》**

課題レポート（30%）、定期試験（50%）、授業内容の理解を求めするために授業後適宜実施する小テスト（20%）

**《授業時間外学習》**

課題にそったレポートのための調査、次回の授業内容を知らせテキストを読んでおくこと

**《備考》**

受講態度や私語に関する注意をする。適宜 VTR などを使用し、理解が深まるよう配慮する。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション・なぜ家族援助が必要なのか
第 2 週	家族とは何か
第 3 週	家族援助とは何か
第 4 週	家族をとりまく社会的状況と家族関係
第 5 週	家族をとりまく社会的状況と家族関係
第 6 週	家族をとりまく社会的状況と家族関係
第 7 週	家族援助論
第 8 週	家族援助論
第 9 週	家族援助論
第 10 週	家族援助論
第 11 週	家族援助の方法
第 12 週	家族援助の方法
第 13 週	家族援助の実際
第 14 週	家族援助の実際
第 15 週	家族援助論まとめ

**《学科教育科目》**

科目名	社会福祉				
担当者名	藤野 ゆき				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

現代社会における社会福祉の意義・理念について学び、社会福祉の歴史のあゆみを通して今日までの社会福祉の発展のプロセスを理解する。さらに、社会福祉の法体系、制度及び行財政の仕組みを知り、社会福祉サービス体系における公私の役割や活動についても詳しく学ぶ。社会福祉の価値観や倫理性および福祉専門職の役割等についても理解を深め、子どもに対する専門職(保育士)としての資質を高める。

**《授業の到達目標》**

社会福祉の意義、理念について考えることができる。  
社会福祉の法制度、体刑を踏まえた上で、社会福祉援助技術を実行できる。

**《テキスト》**

新 保育ライブラリ 保育・福祉を知る 社会福祉 編著者 片山義弘 李木明德  
北大路書房 2009年

**《参考文献》**

必要に応じて随時紹介する。

**《成績評価の方法》**

毎回の講義ごとの小レポート 40%、 試験 60%

**《授業時間外学習》**

次回講義予定範囲の予習し、受講に対する考えをまとめておくこと。

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	現代社会と社会福祉の意義①社会福祉の理念と概念 社会福祉の対象と主体
第 2 週	現代社会と社会福祉の意義②社会福祉のニーズの変容
第 3 週	社会福祉専門職 社会福祉従事者の概要 専門性と倫理 関連する専門職
第 4 週	社会福祉の法体系と実施体系①社会福祉の実施体系 社会福祉の各分野
第 5 週	社会福祉の法体系と実施体系②実施体制と公私の役割
第 6 週	社会福祉の法体系と実施体系③社会福祉の財政と費用負担
第 7 週	社会福祉の動向①高齢者福祉
第 8 週	社会福祉の動向②障害者福祉
第 9 週	社会福祉の動向③ボランティア活動
第 10 週	社会福祉援助技術①社会福祉援助技術の発展
第 11 週	社会福祉援助技術②社会福祉援助技術の形態
第 12 週	社会福祉援助技術③社会福祉援助技術の動向
第 13 週	利用者保護制度の概要①利用者保護制度の目的と仕組み
第 14 週	利用者保護制度の概要②第三者評価と情報提供
第 15 週	まとめ

《学科教育科目》

科目名	社会福祉				
担当者名	杉山 貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

「現代社会に生きる私たちにとって幸せとは何か」を追究します。  
 保育士は保育、子育て支援の専門職であることを認識し、社会福祉での学びが実践活動に活かされるようにすることを目指します。

《授業の到達目標》

現代社会に生きる人々の幸せの実現に向けて、有用な社会的方策について主体的に考えることができますようにします。

《テキスト》

『新保育ライブラリ 保育・福祉を知る 社会福祉』片山義弘・李木明德編著（北大路書房）

《参考文献》

授業中に紹介します。

《成績評価の方法》

授業中の態度、授業への取り組み方（30%）、筆記試験（70%）で評価します。

《授業時間外学習》

事前にテキストを読んで授業には出席してください。授業内容を補うプリントを配布しますので、授業の予習復習に役立ててください。

《備考》

少人数クラスになりますので、受講生間、受講生と教員との意見交換を行い、次の時間につなげていきます。受講生は授業時間内に発言できるよう、事前にテキストをよく読んで出席するようにしてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	現代社会と社会福祉の意義 - 1 授業の概要と進め方等について説明します。 社会福祉の概念（意味、理念、実践、制度）について学習します。
第 2 週	現代社会と社会福祉の意義 - 2 社会福祉の対象と福祉ニーズについて学習します。また、わが国の社会福祉の歴史を概観し、諸外国の社会福祉の歩みを参考に、これからの社会福祉の在り方を考えます。
第 3 週	社会福祉制度と実施体系 - 1 社会福祉制度について、社会福祉六法に沿って学習します。社会福祉の行政機構、社会福祉サービスの実施体制と公私の役割について考えます。
第 4 週	社会福祉制度と実施体系 - 2 社会福祉の財政と費用負担について学習します。保育所の運営と利用者の費用負担についても学びます。
第 5 週	社会福祉制度と実施体系 - 3 社会保障と関連制度について、特に所得保障と医療保障を中心に学習します。
第 6 週	社会福祉援助技術 社会福祉援助技術の意義と体系、社会福祉援助活動の動向について学習します。
第 7 週	社会福祉専門職 社会福祉に携わる保育士、社会福祉士、介護福祉士等の役割と専門性について学習します。職場における倫理についても考えます。
第 8 週	わが国の社会福祉 - 1 子ども家庭福祉について学習します。具体的には、児童虐待、子育て支援、ひとり親家庭への支援について取り上げ考えます。
第 9 週	わが国の社会福祉 - 2 障がい者福祉について学習します。「障害者権利条約」の理念に沿って、障がいのある人の自立について考えます。
第 10 週	わが国の社会福祉 - 3 障がいのある子どもと保育士の役割について考え、その支援方法について学習します。
第 11 週	わが国の社会福祉 - 4 介護保険制度について学習します。介護保険導入の社会的背景と現状について概観し、今後のあり方について考えます。
第 12 週	わが国の社会福祉 - 5 地域福祉について学習します。非営利団体の活動について、アメリカの例をあげその役割について考えます。
第 13 週	わが国の社会福祉 - 6 福祉教育の歩みを概観し、福祉教育の今日的意義について学習します。また、スクールソーシャルワークの役割と課題についても考えます。
第 14 週	利用者保護制度 利用者保護制度の目的と仕組み、サービスの質の確保について学習します。
第 15 週	学習のまとめ 社会福祉に関する学習を振り返り、保育士の果たす社会的意義について考察します。

**《学科教育科目》**

科目名	社会福祉援助技術				
担当者名	高見 スマ子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

社会福祉の現実には複雑さを増してきており、問題解決には高度な知識と技術が欠かせないものになっている。本講では、保育士に求められる相談援助に係る知識と技術について、事例を通してその具体的な援助の実際を習得する。

**《授業の到達目標》**

演習を履修する学生が演習を通して習得すべき相談援助実践の価値・知識・技術等を具体的な演習課題を通して養う。

- ・対人援助職として自己覚知を促す
- ・相談援助における基本的なコミュニケーション技法について学ぶ
- ・相談援助における面接技法について学ぶ

**《テキスト》**

レジュメ等の資料を配布する

**《参考文献》**

必要に応じて紹介する

**《成績評価の方法》**

試験（60%）、レポート（20%）、小テスト（20%）の割合で評価する

**《授業時間外学習》**

社会の動き、福祉問題に敏感になるために、新聞を読むこと  
配布した資料は、熟読すること

**《備考》****《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	保育士に求められるソーシャルワーク
第 2 週	ソーシャルワークの体系
第 3 週	社会福祉援助技術の発展経緯      ～援助の歴史～
第 4 週	社会福祉援助の価値と倫理
第 5 週	ソーシャルワークが提供される場と援助過程
第 6 週	援助関係の基本
第 7 週	自己理解（自己覚知）の演習
第 8 週	他者理解の演習
第 9 週	コミュニケーションスキルの演習
第 10 週	個別援助技術の基礎知識
第 11 週	個別援助技術      事例研究（児童に関する事例）
第 12 週	〃                      事例研究（高齢者に関する事例）
第 13 週	集団援助技術の基礎知識
第 14 週	記録のとり方、留意点
第 15 週	学習のまとめ及び筆記試験

《学科教育科目》

科目名	保育原理 I B				
担当者名	福田 規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育についての理解が少しでも進むと現実を知り、壁にぶつかるものである。それを乗り越えるのは他の誰でもなく自分である。この講義では挑発的に学生諸君に問題を突きつけつつ、それを自分自身の課題と捉えられよう様々な事例を紹介し、ひとりの人間としてどうそれに向き合っていくかについて考えていく。また他者がどう考えるかを知ることも重要なねらいである。

《授業の到達目標》

保育原理 I Aに引き続き科目である。I Aを基礎的知識として保育の現状と問題をより広範囲に探り、実態の認識を通して保育者として望ましい人間性の育成を目指す。保育者は子どもとのかかわりだけでなく、保護者や地域の人々、同僚という大人とのかかわりも欠かせない。そのことへの自覚、自己改善も大切な目標となる。

《テキスト》

『よくわかる保育原理』森上史朗・大豆生田啓友編（ミネルヴァ書房 2008）・・・1年次に購入済み

《参考文献》

『保育者の職能論』田中亨胤他編著（ミネルヴァ書房 2006）

『親子ストレス』汐見稔幸（平凡社新書 2000）

『ケアの本質』ミルトン・メイヤロフ 田村真・向野宣之訳（ゆみる出版 2008）

『21世紀の子育て支援・家庭支援』伊志嶺美津子・新澤誠治（フレーベル館 2003）

その他授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（20%）と筆記試験（80%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

講義終了時に次回講義の予告を行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。

学びにはリフレクションが重要です。よって講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。

適宜課題を出すので真面目に取り組んでください（例えば自分の望む子育て支援策についてのレポートやネットを利用した情報収集、メディアを駆使したレポート課題の提出等）。

《備考》

全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。

法令を見ることも多いので、1年次に購入した『最新保育資料集』や『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説』を必要に応じ持参のこと。

子どもに関する情報を様々なメディアを通じて自分でも収集することに努めること。その一環での講義への事例提供を歓迎する。

最後にまた原理？？ではなく、今まで学んだことを基に是非自分なりの保育観を考えつつ受講してほしい。また他人の意見を尊重する姿勢も大切である。

受講に際しては、保育者にふさわしい出席・態度・準備を要求する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業のオリエンテーション、保育所保育指針解説書
第 2 週	保育所保育指針解説書
第 3 週	幼稚園教育要領解説
第 4 週	保育の方法
第 5 週	保育の方法
第 6 週	保育の計画
第 7 週	保育の計画
第 8 週	保育者の専門性
第 9 週	保育者の専門性
第 10 週	家族援助と子育て支援
第 11 週	家族援助と子育て支援
第 12 週	健康安全と多様な子どもへの対応
第 13 週	健康安全と多様な子どもへの対応
第 14 週	保育の現状と課題
第 15 週	まとめ・筆記試験

## 《学科教育科目》

科目名	保育原理Ⅱ				
担当者名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

## 《授業のねらい及び概要》

保育施設設立の変遷史を通して保育の役割や意義について理解を深めるとともに、現代保育の現状や課題について考察する。それとともに、保育の基本や特性、何が育つのか、また、何を育てるのかについて、一歩踏み込んだ保育への理解を試みる。

## 《授業の到達目標》

- ・欧米および日本の保育施設設立の時代的要請と保育に課せられた役割について理解できるようにする。
- ・保育の歴史と現状を理解し、保育の課題についての考察を試みる。
- ・保育の基本や特性について理解し、＜何が＞また＜何を＞「育つ」「育てる」「育む」のかということについて、洞察を深めることができるようにする（視点を持つことができるようにする）。

## 《テキスト》

柴崎正行編著 『保育原理－新しい保育の基礎－』 同文書院

## 《参考文献》

諏訪きぬ編著 『現代保育学入門』（改訂新版）フレーベル館

小田豊・押谷由夫編著 『保育と道徳－道徳性の芽生えをいかにほぐむか－』 保育出版社

## 《成績評価の方法》

平常の出席と受講態度（聞く、読む、発言する、発表する）、提出物などの評価（50%）、および学期末のレポート（50%）で評価する。

## 《授業時間外学習》

- ・テキストの該当箇所を熟読し、予習や復習を行うこと。
- ・課題を設定して提出してもらうことがあります。参考図書などの資料を調べてレポートにまとめる、また、考えを整理してレポートにまとめる、ということができるようにすること。

## 《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を厳禁とする。

## 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保育施設の設立と変遷の歴史を通して、保育の役割と意義について理解する
第 2 週	欧米における保育施設の設立と変遷
第 3 週	日本における保育施設の設立と変遷
第 4 週	日本における保育施設の現状と課題
第 5 週	保育の目的と基本について
第 6 週	保育の特性について
第 7 週	幼児の遊びと発達の多様性について
第 8 週	遊びの充実と保育者の関わりについて
第 9 週	保育の過程と子ども理解について
第 10 週	子どもの内面の理解について
第 11 週	何が育ち、何を育てるのかについて
第 12 週	一緒に活動する力、いろいろなものとかかわる力、集中する力
第 13 週	気づき、感じる力、想像し表現する力
第 14 週	判断する力、観察する力、自分や人と対話する力
第 15 週	まとめ－子ども理解と保育活動の基盤について

《学科教育科目》

科目名	養護原理Ⅱ				
担当者名	杉山 貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本講義は障がいのある子どもが大人へと成長する過程をひとつの流れとして捉え、その端緒となる就学前にかかわることの多い保育士の役割について、子どもの将来を見据えて考えます。

特に、就学前の発達障がい児への対応、将来地域の中で自立して生活するための社会環境整備と社会資源の開発、保護者を含めた具体的支援方法について、視聴覚教材を活用し学習します。

《授業の到達目標》

就学前児童の集団保育の場でのインクルージョンの推進に伴い、「気になる子」の存在が増加しつつあります。本講義では発達障がい及び知的障がいのある子どもについて理解し、その援助方法を具体的に学習します。そして、子育て支援に関する専門職、保育士の役割についても考えます。

《テキスト》

プリントの配布を予定しています。

《参考文献》

授業中に紹介します。

《成績評価の方法》

授業内課題（授業時間内に課すレポート）（80%）、テスト（20%）で評価します。

《授業時間外学習》

図書館を活用し、紹介した参考図書を読み、レポートの作成に役立ててください。

《備考》

保育実習Ⅰ、Ⅱを修得していることを受講の要件とします。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	子どもの人権の尊重について 本講義の目的と保育士資格との関係性について説明し、授業の基本となる理念、子どもの人権の尊重について考えます。
第 2 週	障がい者の権利条約 2006年12月、国連総会で採択された「障害者権利条約」について理解し、教育の場における「合理的配慮」について考えます。《DVD 視聴》
第 3 週	障がい者福祉の現状 「障害者自立支援法」について理解し、施設での生活から地域社会での生活に向けての取り組みについて考えます。また、企業の知的障がい者雇用の実際を理解し、就学前から始める療育の有用性について考えます。
第 4 週	知的障がい者の福祉的就労 知的障がいのある人が自信を持って働く姿を通して、地域社会の中で生活する意義について考えます。《DVD 視聴》
第 5 週	スウェーデンの知的障がい者福祉の歩み 施設での生活を強いられた知的障がい者が、街の中のグループホームでの生活を獲得するまでの歩みと支援策の現状について学びます。《DVD 視聴》
第 6 週	自閉症の子の子育て 自閉症の子の生活の実際を観察し、その育て憎さと支援の必要性について考えます。また、自閉症スペクトラムについて理解します。《DVD 視聴》
第 7 週	自閉症の子の進路 言葉にならない言葉の存在、借りてきたロボットの中にいる感覚など、自閉症の多様な特徴について理解します。《DVD 視聴》
第 8 週	発達障がいの理解と支援 知的障がい、発達障がいについての定義と特性について学習します。どういった支援があり、保育者はどう関わることかについて考えます。
第 9 週	発達障がいのある人の人間関係 発達障がいや人間関係が苦手な人のためのソーシャルスキルトレーニングについて学習します。《DVD 視聴》
第 10 週	発達につまづきがある子ども 療育の実際と支援の実際を通して、社会性活力を育てる方法について学習します。《DVD 視聴》
第 11 週	「関わりことば」について 就学前児童の社会性を養う、幅広く活用できる関わりことばについて学習します。《DVD 視聴》
第 12 週	支援ツールの種類と作り方 場面に応じた支援ツールの種類と使い方について学習し、実際の場面を想定して支援ツールを作ってみます。
第 13 週	発達障がいの子を持つ保護者 障がいのある子どもをもつ母親への支援について、保育所で保育士と関わった経験を語る母親の心情を受け止め、考察します。《DVD 視聴》
第 14 週	障がいのある子に対する保育士の姿勢 絵本を題材にして、障がいについての理解を深めるための方法を、幼児クラスを想定して考えます。スウェーデンとわが国の保育所における、保育士の子どもへのかかわり方や基本的考え方の相違についても参考にして考えます。
第 15 週	学習のまとめ 発達障がいについての知識と、障がいのある子どもへの保育士の対応の仕方についてまとめ、卒業後の活動に役立てられるようにします。

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者名	笹田 哲男・三井 圭子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	3年・I期分

《授業のねらい及び概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を見につける。参加指導実習において、積極的に子どもとかかわり、幼児理解を深める。子どもの遊ぶ姿から、心を読み取り、適切な援助ができるように、授業で学んだことを実践する場であることを意識する。保育に参加し、現場の保育者の姿から、より良い保育者として身につけるべきことを学ぶ。相互学習から保育する力をつけ、保育の課題を見出す

《授業の到達目標》

積極的に参加指導実習に臨む。幼児期の子どもの成長発達を理解し、子どもへの対応が速やかにできるようにする  
指導計画が立案でき、ねらいをもった保育の展開ができるようにする。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』  
『実習日誌の書き方』 萌文書林  
『実習の手引き』  
プリント配布

《参考文献》

『保育の実技』『保育とカリキュラム』  
授業中に適宜紹介

《成績評価の方法》

授業で課した資料の提出 (10%) 発表、授業態度 (20%) 実習園の評価 (70%)  
見学観察実習と参加指導実習、事前事後の授業で最終の評価をする。

《授業時間外学習》

授業で課した資料の提出を期日までに提出できるよう準備しておく

《備考》

教育実習の資格条件を理解し遵守する。欠席、遅刻、早退はしないようにする。やむをえず欠席、遅刻、早退をした場合は、保育研究室に連絡をする。そして、担当者からの指示を受ける。  
授業中の私語、飲食、携帯電話の使用を厳禁する。授業の妨害なども、厳重に対処する。  
授業中に課した資料の提出は期日を守ること。(期日以外は受け付けません)  
教材研究のためハサミ、のり、セロテープ、ホッチキス等常に携帯しておくこと。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	幼稚園参加指導実習直前指導 実習についての心構えの確認 実習園の確認とオリエンテーションについて
第 2 週	実習ノートの書き方について 環境構成・予想される子どもの活動 子どもの姿のとらえ方
第 3 週	実習ノートの書き方について 教師の援助 実習生のかかわり 学んだことの具体的な記述に仕方 長期、短期の指導計画について
第 4 週	指導計画の作成と実際 部分保育のねらいについて
第 5 週	指導計画の作成と実際 部分保育の内容について
第 6 週	指導計画の作成と実際 模擬保育をする
第 7 週	指導計画の作成と実際 模擬保育をする
第 8 週	実習直前指導 実習ノートの記載について、 実習生としての態度、服装、あいさつなど心構え、注意事項などの確認
第 9 週	実習後の反省、課題について 実習園へのお礼 実習ノートについての質問
第 10 週	保育実践力をつけるための教材研究
第 11 週	課題研究、実践内容 (レポート作成・発表)
第 12 週	課題研究、実践内容 (レポート作成・発表)
第 13 週	課題研究、実践内容 (レポート作成・発表)
第 14 週	課題研究、実践内容 (レポート作成・発表)
第 15 週	幼稚園参加指導実習の相対評価と反省及びまとめ

**《学科教育科目》**

科目名	教育実習				
担当者名	笹田 哲男・三井 圭子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期分

**《授業のねらい及び概要》**

幼児教育の場で、生かせるように実践力、保育力を身につける。具体的に子どもが楽しんで活動できることを、工夫し、創造していく。

**《授業の到達目標》**

幼稚園の教育課程を考えながら、子どもの活動がより楽しいものするために、環境構成、遊びの創造をする。保育の実践が自ら考えてできるようにする。

**《テキスト》**

『幼稚園教育要領解説』  
『実習の手引き』  
『実習日誌の書き方』 萌文書林

**《参考文献》**

『保育実技』 萌文書林  
『保育のカリキュラム』  
授業で適時紹介

**《成績評価の方法》**

授業での提出物、授業態度（30％） 実習園の評価（70％）最終的に評価します。

**《授業時間外学習》**

子どもが楽しいと思える環境構成、遊び等を、保育資料で研究しておく

**《備考》**

教育実習の資格条件の理解をし遵守する。欠席、遅刻、早退をしない。やむおえず欠席、遅刻、早退をした場合は、保育研究室に連絡をする。後日担当者の指示をうける。  
授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。教材研究をしますので、ハサミ、のり、セロテープ、ホッチキスなど常に携帯しておく。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の進め方 幼稚園教育課程に基づいた指導計画について 課題研究を考える
第 2 週	課題研究・グループ発表 討議 保育室の環境構成について
第 3 週	課題研究・グループ発表 討議 保育室の環境構成について
第 4 週	課題研究・グループ発表 討議 保育室の環境構成について
第 5 週	課題研究・グループ発表 討議 子どもが楽しむ動くおもちゃ等
第 6 週	課題研究・グループ発表 討議 子どもが楽しむ動くおもちゃ等
第 7 週	課題研究・グループ発表 討議 行事等の制作物について
第 8 週	課題研究・グループ発表 討議 行事等の制作物について
第 9 週	課題研究・グループ発表 討議 子どもの造形展について
第 10 週	課題研究・グループ発表 討議 園庭の遊具での遊びについて
第 11 週	課題研究・グループ発表 討議 園庭の遊具での遊びについて
第 12 週	課題研究・グループ発表 討議 園のお便りなどについて
第 13 週	課題研究・グループ発表 討議 園のお便りなどについて
第 14 週	課題研究・グループ発表 討議 園のお便りなどについて
第 15 週	レポートの提出 授業のまとめ

## 《学科教育科目》

科目名	教育心理学				
担当者名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

## 《授業のねらい及び概要》

人は生まれてから実にたくさんのことを身につけて発達していきます。それを可能にするのが、広い意味での教育です。人の人としての発達を支える教育という営みについて心理学の観点から考えていきます。

## 《授業の到達目標》

教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習のメカニズムについて理解できるようになること。

## 《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

## 《参考文献》

- 『やさしい教育心理学〔改訂版〕』 鎌原雅彦・竹綱誠一郎（著） 有斐閣 2005  
『教育心理学〔新版〕 ベーシック現代心理学6』 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司（著） 有斐閣 2003  
『よくわかる教育心理学』 中澤潤（編） ミネルヴァ書房 2005

## 《成績評価の方法》

最終回に行う授業目標の到達度評価（テスト）100%

## 《授業時間外学習》

授業時間中に取り上げたテーマについて、参考文献などを読むことで理解を深めること。

## 《備考》

## 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教育心理学＝発達と学習の心理学を学ぶ意義
第 2 週	人の発達を支える教育的環境
第 3 週	学習の基礎を理解する：学習のメカニズム その1
第 4 週	学習の基礎を理解する：学習のメカニズム その2
第 5 週	「知識を身につける」ということについて
第 6 週	学習を支える記憶のメカニズム
第 7 週	モチベーション（動機づけ）について
第 8 週	学びへのモチベーション：多様な動機に支えられた学びを目指して
第 9 週	モチベーションの低下について：無気力あるいは無力感の原因と対応を考える
第 10 週	教授法と教育評価：教え方と評価の仕方について
第 11 週	学級という集団を理解する：特に集団への同調について考える
第 12 週	学級という集団を理解する：特に権威への服従について考える
第 13 週	教師のメンタルヘルスについて：バーンアウトをめぐる
第 14 週	教育という営みについてふりかえる
第 15 週	授業目標の到達度評価（テスト）

**《学科教育科目》**

科目名	教育制度論				
担当者名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

明治以降の日本教育制度史を、学校制度史を中心に学んだのち、現代日本の学校制度、教育行政制度等の課題について、検討を加えていく授業です。

**《授業の到達目標》**

1. 近代以降の日本の教育制度史に関する知識を獲得する。
2. 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などについての知識を獲得する。
3. 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などの課題について考える力を獲得する。

**《テキスト》**

『要説 教育制度[三訂版]』森秀夫（学芸図書）

**《参考文献》**

その都度、紹介します。

**《成績評価の方法》**

授業時間内に実施する筆記試験の結果で100%評価します。

**《授業時間外学習》**

教科書の指定箇所を読んでおくこと。

**《備考》**

「子どもの学習権」、「国家の教育への関わり方」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えています。積極的な受講を、期待しています。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	教育制度、公教育の歴史類型、学校制度について
第 2 週	日本教育制度史（1）明治期 VTR使用
第 3 週	日本教育制度史（2）大正期、昭和期 VTR使用
第 4 週	現代日本の教育制度（1）保育制度 VTR使用
第 5 週	現代日本の教育制度（2）初等教育制度 VTR使用
第 6 週	現代日本の教育制度（3）中等教育制度
第 7 週	現代日本の教育制度（4）高等教育制度
第 8 週	現代日本の教育制度（5）社会教育制度
第 9 週	現代日本の教育制度（6）その他（教員養成制度等） VTR使用
第10週	海外主要国の学校制度 VTR使用
第11週	教育制度と「教育法の体系」 VTR使用
第12週	教育行財政のしくみと教育法
第13週	学校、教職員と教育法（1）
第14週	学校、教職員と教育法（2）
第15週	まとめ

《学科教育科目》

科目名	教師論				
担当者名	藤井 恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・ 学生が目指す保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。
- ・ 保育に関する知識を深め、1年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。
- ・ 学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用する。
- ・ 模擬保育を行い、自らの望ましい保育者像を構想する。

《授業の到達目標》

- ・ 教職の意義と保育者の役割を理解できる。
- ・ 教職（保育）に対する自らの適性を探究し、保育実践者としての意欲を高める。

《テキスト》

改訂『保育者論』 民秋 言 編著（建帛社）

《参考文献》

- 『幼稚園教育要領・保育所保育指針』  
 『新しい時代の幼児教育』小田豊・榎沢良彦 編（有斐閣）  
 『フレーベル全集第二巻・人の教育』フレーベル（玉川大学出版部）  
 『倉橋惣三「保育法」講義録』菊池ふじの監修（フレーベル館）  
 『保育者の地平』津守 真著（ミネルヴァ書房）その他、授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

定期テスト50%、レポート30%、授業態度20%

《授業時間外学習》

- ・ 次回の授業範囲を予習しておいてください。特に、教科書をよく読んでおいてください。
- ・ 適宜課題を出します。その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめてきてください。
- ・ 授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめておいてください。

《備考》

- ・ 幼稚園・保育所などに関する情報（特に教職に関すること）を常に意識して、収集しておいてください。
- ・ 教科書は必ず持参してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の進め方・評価方法などのガイダンス 現時点で考え、目指す保育者像
第 2 週	教職の意義 保育するということ
第 3 週	保育の歴史と教師像① 諸外国にみる保育
第 4 週	保育の歴史と教師像② 日本にみる保育
第 5 週	保育者の専門性① 幼稚園における保育者の役割
第 6 週	保育者の専門性② 保育者の実践活動
第 7 週	保育者の専門性③ 保育所における保育者の役割
第 8 週	保育者の専門性④ 保育士の実践活動
第 9 週	法と保育者① 保育者の職務
第 10 週	法と保育者② 保育者の研修
第 11 週	保育者への学習課題① 討議「保育者のイメージと自己認識」
第 12 週	保育者への学習課題② 討議「保育者の専門職性」
第 13 週	保育者への学習課題③ 討議「保育者の資質」
第 14 週	いま、保育者に求められるもの
第 15 週	全体のまとめ

### 《学科教育科目》

科目名	乳児保育Ⅱ				
担当者名	鈴木 富美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

### 《授業のねらい及び概要》

1. 乳児保育Ⅰの授業で学んだ理論、知識、技術を基礎に保育所、乳児院における保育を実践的に学ぶ。
2. 保育所・乳児院における保育内容を学びつつ、授業の中で実践をし技術の向上をはかる。
  - ・遊びの実践
  - ・子どもの生活を豊かにする実践活動（手作りおもちゃ、おたより）、マップ作りなど

### 《授業の到達目標》

- 0、1、2 際児の発達を援助する保育技術の習得（実践力を身につける）

### 《テキスト》

「乳児の保育新時代」 ひとなる書房  
必要に応じプリント配布

### 《参考文献》

「保育所保育指針」  
「保育小六法」  
「乳児保育」  
「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい  
「すくすくハンドブック」神戸市保健福祉局

### 《成績評価の方法》

課題提出（作品・レポートなど）（85%） 授業態度（15%）

### 《授業時間外学習》

教科書の指定範囲を読んでおくこと。  
授業終了時に配布したプリントは必ず読み、課題があればレポート提出をすること。  
次回の授業範囲を予習し、保育用語の意味を調べてノートに整理しておくこと。  
授業終了後には学習した範囲の復習をはかること。

### 《備考》

授業中の携帯電話の使用、飲食は禁止する。  
授業中の私語を慎む。  
正当な理由のない欠席や遅刻は厳重にチェックする。  
手作りおもちゃの製作に必要なものを準備する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション ・授業の概要 ・履修上の諸注意 ・授業のすすめ方 ・乳児保育の意義と現状
第 2 週	0、1、2 歳児の発達と保育 ・発達の特徴と保育者のかかわり
第 3 週	0、1、2 歳児の生活 ・基本的生活習慣の形成と援助
第 4 週	0、1、2 歳児の遊びと実践 ・保育者のかかわり（ふれあい遊び） ・手遊び、目遊び、足遊び ・赤ちゃんマッサージ
第 5 週	手作りおもちゃの製作 ・小さな抱き人形又ははいないいないバァ人形
第 6 週	手作りおもちゃの製作 ・小さな抱き人形
第 7 週	手作りおもちゃの製作 ・作品発表 ・遊びの展開
第 8 週	保育の環境 環境構成とハザードマップ作り
第 9 週	保育計画 ・保育課題のとらえ方 ・指導計画（年間、月間、週案、日案）
第 10 週	行事と保育 ―クリスマスを考える― ・サンタクロースとの出合いや子どもの夢の世界の理解 リースを作る（自然物を使って、身近な素材を使って）
第 11 週	行事と保育 ―クリスマスを考える― ・身近な素材でプレゼントを作る （小さなバスケットとぬり絵）
第 12 週	行事と保育 ―お正月遊びを考える― ・いろいろなコマを作る ・絵カード（絵合せ）を作る ・鉄ゴマの回し方を覚える
第 13 週	家庭・他機関・地域との連携 ・保護者への援助、おたより作成
第 14 週	保育者の専門性と資質 ・理想の保育士像 ・全国保育士会「保育士倫理綱領」の理解
第 15 週	・チームワークについて及びまとめ

**《学科教育科目》**

科目名	教育相談				
担当者名	大久保 恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

**《授業のねらい及び概要》**

1. 教育相談、カウンセリングの理論、基礎知識を身につける。
2. 描画など心理検査などを体験して自己理解を深める。
3. 教育現場での実際を通して、実践的な力を養う。

**《授業の到達目標》**

教育相談の基礎的な考え方を習得し、子どもの問題行動への理解を深め、その対応を実践できる。

**《テキスト》**

「新・学校教育相談心理学」石川正一郎・松尾浩一郎編著（北大路書房）

**《参考文献》**

「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著（三省堂）

**《成績評価の方法》**

平常点（20%）、提出物（20%）、テスト（60%）

※授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上になった者には単位を与えることができません。

**《授業時間外学習》**

- ・教科書の指定箇所を読んでおくこと。
- ・授業中に配布するプリントを整理し、よく読んでおくこと。
- ・実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。

**《備考》**

講義の開始時に出席を確認します。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	教育相談と自己理解
第 2 週	教育相談の実際 1
第 3 週	教育相談の実際 2
第 4 週	パーソナリティとその理解 1
第 5 週	パーソナリティとその理解 2
第 6 週	発達と教育相談
第 7 週	発達障害と教育相談
第 8 週	カウンセリングとは
第 9 週	カウンセリング体験
第 10 週	主な心理療法と心理検査
第 11 週	描画体験とその理解
第 12 週	関係機関との連携・協働
第 13 週	ケーススタディ（幼児期）
第 14 週	ケーススタディ（児童期・思春期）
第 15 週	学習のまとめ

**《学科教育科目》**

科目名	総合演習				
担当者名	中川 智章				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

特殊問題を取り上げ、そこでの「人権」を考える。  
事例演習を行なう。

**《授業の到達目標》**

保育士としてまた、人間として最低限、心得ておくべき「人権意識」を養う。

**《テキスト》**

第一講で示す

**《参考文献》**

講義中に提示する。

**《成績評価の方法》**

レポート（60%）と研究発表（40%）で評価する。

**《授業時間外学習》**

- (1) 予め教科書の○頁から○頁までを読んでおくこと。
- (2) 上記(1)の講義をした後、プリントに難解であったと思われる事項等を記載して提出する。

**《備考》**

- (1) 講義中に私語をしないこと。
- (2) 講義中、携帯電話を操作しないこと。
- (3) 小型の六法全書と教科書を毎時間持参すること。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	人権とは何か
第 2 週	明治維新と人権状況
第 3 週	上からの改革
第 4 週	文明開化と自然法思想
第 5 週	明治憲法と臣民の権利
第 6 週	人権保障制度の欠落
第 7 週	人権と大正デモクラシーの限界
第 8 週	労働運動と人権
第 9 週	農民の困窮状況
第 10 週	臣民の権利
第 11 週	天皇制ファシズムへの道
第 12 週	人権と終戦
第 13 週	人権抑圧
第 14 週	現代における人権の危機
第 15 週	まとめ

**《学科教育科目》**

科目名	総合演習				
担当者名	安井 重雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

**《授業のねらい及び概要》**

絵本は保育のための教材として重要である。しかし、絵本はしっかりと「読む」ことができているだろうか。絵本は絵と文で出来ている。絵と文は同じ作者の場合もあるし異なる場合もある。絵にも文にも作者が伝えたい、表現したいと考えていることがある。この授業では、それらの絵本に表現されていることを読み取りたい。それによって今までより深く絵本を理解することを目指す。

**《授業の到達目標》**

- ・絵本全体の場面構成を把握し、ストーリーと展開を説明できる。

**《テキスト》**

それぞれの学生が選んだ絵本がテキストとなる。選んだ絵本について調べてまとめた資料を教員がコピーして配布する。

**《参考文献》**

特になし。

**《成績評価の方法》**

出席は10回以上でなければ単位は与えない。発表内容、発表資料、授業内での発言などの平常点（50%）、期末レポート（50%）によって評価する。

**《授業時間外学習》**

次回授業で扱う絵本は前もって指示するので、その絵本を読み、理解しておくこと。

**《備考》**

大人になると、絵本から離れる人が多く、絵本は子どものものと考えがちだが、この授業を通して、絵本は大人も読めるものであること、絵本の持っている豊かな可能性に気づいてほしい。

**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の進め方、発表資料の作り方の説明。
第 2 週	教員が選んだ絵本を読み、絵本の内容について考える。
第 3 週	絵本の内容と、作者について考える。
第 4 週	グループ発表。
第 5 週	グループ発表。
第 6 週	グループ発表。
第 7 週	グループ発表。
第 8 週	グループ発表。
第 9 週	グループ発表。
第 10 週	グループ発表。
第 11 週	グループ発表。
第 12 週	グループ発表。
第 13 週	グループ発表。
第 14 週	グループ発表。
第 15 週	レポートの提出と授業のまとめ。

## 《学科教育科目》

科目名	総合演習				
担当者名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

### 《授業のねらい及び概要》

授業は英語のみで、TPR(Total Physical Response)の理論にもとづいて行う。このTPRは母国語である日本語をかいさずに、体の動きを通して英語を教える方法である。近い将来幼児教育指導者になられる保育科の学生のみなさんがぜひとも知っておいていただく必要のある指導法である。

具体的には、歌、物語、会話を通して学んでいく。

### 《授業の到達目標》

- 1.この授業を通して、保育科の学生のみなさんに英語を好きにさせたい。英語を学んだら、こんなに楽しいよ！夢がもてるよ！という授業をめざしたい。
- 2.この楽しさ、夢を保育園、幼稚園で生徒に伝えていただく指導者になっていただきたい。
- 3.英語を通して異文化理解を学ぶ。

### 《テキスト》

- 1.「Enjoy English」 小泉 毅編（長崎出版）
- 2.クリアーファイル(A4)を購入。  
このファイルに配布されたプリントを保管していただきたい。

### 《参考文献》

- 1.「Let's sing together」 阿部 恵子著（APRICOT）
2. Wee sing series
3. Addison-wesley storybooks series  
これらは大学図書館に所蔵されています。

### 《成績評価の方法》

幼児教育指導者として、英語、異文化理解を教えていただきたいので、プレゼンテーション中心の授業にしていきたい。それで評価はつぎのようにしたい。

- 1)発表-40%,2)宿題-30%,3)小テスト-30%. 授業欠席回数が実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

### 《授業時間外学習》

毎回宿題をだします。音読をして、ていねいにノートに書いて、暗唱までしてください。また図書館の参考図書を使用する宿題もだします。図書館をよく利用してください。

### 《備考》

兵庫大学短期大学部保育科は、素晴らしい先輩が幼児教育現場の指導者として日本全国で活躍されている伝統ある素晴らしい学科である。

最近のグローバル経済化の世界において、コミュニケーションとしての英語の必要性が、世界中で求められている。この流れから、日本においても小学校において総合科目の中で英語を教えている現状から、「教科」として英語を教える方向になりつつある。そこで、多くの幼児教育現場においても、英語、異文化理解教育がすでに行われている。

この授業を通して、英語、異文化理解教育を教えられる新たな保育指導者になっていただきたい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1.授業の説明、評価方法を詳細に説明。 2.TPR について説明 3.席順の決定
第 2 週	テーマ：あいさつ 歌：Hello song 会話：Enjoy English ,P.30,Part.8. フォニックス：フォニックス アルファベット 物語：三匹の子ぶた、2～3 ページ。
第 3 週	テーマ：アルファベット 歌：ABC Steps 会話：Enjoy English ,P.30,Part.9. フォニックス： フォニックス アルファベット 物語： 三匹の子ぶた、4～5 ページ。
第 4 週	テーマ：かず 歌：Ten Little Witches 会話：Enjoy English ,P.32,Part.10. フォニックス：子音 物語：三匹の子ぶた、6～7 ページ。
第 5 週	テーマ：いろ 歌：Colors 会話：Enjoy English ,P.32,Part.11. フォニックス： 子音 物語：三匹の子ぶた、8～9 ページ。
第 6 週	テーマ：動物 歌：Old MacDonald had a farm 会話：Enjoy English ,P.34,Part.12. フォニックス： 母音 物語：三匹の子ぶた、10～11 ページ。
第 7 週	テーマ：家族 歌：I'm a Little Teapot. 会話：Enjoy English ,P.34,Part.13. フォニックス： 母音 物語：三匹の子ぶた、12～13 ページ。
第 8 週	テーマ：たべもの 歌：Ten Fat Sausages 会話：Enjoy English ,P.36,Part.14. フォニックス： フォニックスを使って読み方練習。 物語：三匹の子ぶた、14～15 ページ。
第 9 週	テーマ：体の部分 歌：Head, Shouders, Knees & Toes. 会話：Enjoy English ,P.36,Part.15. フォニックス： フォニックスを使って読み方練習。 物語：三匹の子ぶた、2～9 ページ。
第 10 週	テーマ：乗物 歌：The Bus Song 会話：Enjoy English ,P.38,Part.16 フォニックス： フォニックスを使って読み方練習。 物語：三匹の子ぶた、10～15 ページ。
第 11 週	テーマ：季節 歌：Eency Weency Spider 会話：Enjoy English ,P.38,Part.17. フォニックス： フォニックスを使って読み方練習。 物語：三匹の子ぶた、2～9 ページ (暗唱)
第 12 週	テーマ：形 歌：Shapes 会話：Enjoy English ,P.40,Part.18. フォニックス： Silent E 物語：三匹の子ぶた、10～15 ページ (暗唱)
第 13 週	プレゼンテーションの打合せと計画
第 14 週	プレゼンテーション (予行)
第 15 週	プレゼンテーション

## 《学科教育科目》

科目名	総合演習				
担当者名	三浦 摩美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

### 《授業のねらい及び概要》

人間が成長する過程で切り離すことのできない児童文化について、これまでの児童文化および現在の児童文化について調べ、保育活動との関連で考察できるようにする。授業の流れとしては、まず、われわれにとって、そして子どもにとって文化とはどのような意義や役割があるかについて考察し、過去から現在に至る児童文化がどのように伝承され、創造されてきたのかについて理解する。また、教育財としての機能をもつ児童文化を保育のなかに活かすための工夫についても考察する。

### 《授業の到達目標》

- ・文化・児童文化の機能や意義について理解する。
- ・児童文化の人間形成に果たす役割について考察できるようにする。
- ・児童文化と保育活動を関連付けることができ、よりよい文化財の伝承や創造ができるように工夫する。

### 《テキスト》

適宜資料を配布する。

### 《参考文献》

授業中に紹介する。

### 《成績評価の方法》

平常の出席、発表や平常のレポート等の提出物（60%）、および期末のレポート（40%）で評価する。

### 《授業時間外学習》

- ・各自およびグループ学習に必要な参考図書については図書館で調べ、参考資料として十分活用できるようそのつどアドバイスを行うので、参考資料を熟読し発表用に要点をまとめるようにすること。
- ・実際に作品を作成し、それをを用いて実技してもらうことがあるので、児童文化財を構成する素材の性質や構造、遊び方等について一定の理解をもって制作できるようにすることが望ましい。
- ・一言で児童文化財といっても、その種類や用い方は多様であるので、日ごろから意識的に児童文化に目を向け、さまざまな児童文化に触れる機会を持つように心がけること。
- ・保育のなかの児童文化の意義について考察し、レポートにまとめることができるよう、毎回の授業内容と子どもの育ちや保育のなかでの活用や工夫について関連づけながら取り組むことができるようにすること。

### 《備考》

各テーマに応じた資料の収集と発表、そして発表での意見交換では、意欲的・積極的な取りみを評価します。それぞれにつき、さまざまな視点での意見交換をもって進めることができるようにしたい。

### 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（授業の進め方）
第 2 週	文化および児童文化とは何か
第 3 週	児童文化についてのグループ発表（課題発表と意見交換）
第 4 週	童話・紙芝居・絵本など、児童文学の歴史について
第 5 週	さまざまな児童文学について調べる（課題発表と意見交換）
第 6 週	わらべうたや童謡の歴史について
第 7 週	さまざまなわらべうたや童謡について調べる（課題発表と意見交換）
第 8 週	おもちゃの歴史について
第 9 週	さまざまなおもちゃについて調べる（課題発表と意見交換）
第 10 週	さまざまな遊びの歴史について
第 11 週	さまざまなゲームや遊びについて調べる（課題発表と意見交換）
第 12 週	今日の児童施設のなかの児童文化の機能と役割について
第 13 週	児童文化作品の制作と講評
第 14 週	児童文化作品の制作と講評
第 15 週	まとめ—子どもの育ちや保育活動のなかの児童文化の意義について

## 《学科教育科目》

科目名	総合演習				
担当者名	三井 圭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3・Ⅱ期

### 《授業のねらい及び概要》

保育現場の環境のあり方を考える。

一人ひとりの幼児が、楽しい保育園・幼稚園と思えるよう保育室、園庭の環境構成をどのようにすればよいか。

幼児が自ら弾んで活動できる環境を作り出す保育者を目指す。

保育室の壁面・コーナー遊びの構成、日常に必要な保育の小物、子どもがよるこぶワッペン、カード類、手作りおもちゃ類、などアイデアを出しながら現場で役立つものを学習し実践していく。理論と実技とを並行する。シラバスの計画を変更することもある。

### 《授業の到達目標》

子どもの遊びを考えながら、その遊びが活かされた、或は活かした環境構成にする。そのためには、四季折々の子どもの姿や遊びを知り、自然から学び、工夫し創造する喜びを持つ。形あるものに仕上げ、成果を発表する。

子どもが自らかかわり、子どもが興味や関心、意欲を持つ環境とは何かをいつも考え、目指していく。

子どもと共に作り、保育をしているという意識を常に持つ。保育力を付けることを目標にする。

### 《テキスト》

「保育所保育指針解説書」

「幼稚園教育要領解説書」

適宜資料を配布する

### 《参考文献》

授業中紹介します

### 《成績評価の方法》

課題研究（20％）学習意欲と積極的な制作（20％）完成した作品（40％）演習に関するレポート（20％）（提出物は期限厳守）

出席は2/3以上出席することを含め、評価します。

### 《授業時間外学習》

四季折々の子どもの活動、遊びの内容など、様々な情報を得るように事前の下調べをする。

色々なアイデアのヒントを得るようにする。

保育雑誌なども図書館で見しておく。参考になるものを各自で収集しておくことも重要です。

保育教材を知る。

### 《備考》

どんな材料を使用するか、それらの材料を準備しておく。（廃材など）

常に、ハサミ、のり、セロテープ、ホッチキス、クリップ他、実技に必要なものを持参しておく。

### 《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション・授業の進め方・保育の環境の重要性を考える
第 2 週	保育室内の具体的な環境構成について・幼児が自ら活動できる環境とは何かを考える
第 3 週	カレンダー作り・日めくり・お誕生表・お誕生、お祝いカード等・コーナー遊びに必要なものなど具体的に考える
第 4 週	各自子どもと共に作れるものを考え、情報を交換しながら、作成するものを決定して、並行しながら作成
第 5 週	保育に活かすことができる作品・子どもと共にできる作品を決定して、並行しながら作成
第 6 週	作成と模擬保育的な発表
第 7 週	作成と模擬保育的な発表
第 8 週	グループ編成と共同で作る壁面、パネルを考える。各グループの方向性を考える
第 9 週	四季折々の壁面(子どもの遊びを含んだもの)、お話のあるパネルなどのグループで研究と作成
第 10 週	グループで研究と作成
第 11 週	グループで研究と作成
第 12 週	グループで研究と作成
第 13 週	発表と討議
第 14 週	発表と討議
第 15 週	全体のまとめと討議